

前谷遺跡 Ⅴ

埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

埼玉県戸田市教育委員会

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

平成28年3月、事業者から戸田市教育委員会（以下「市教育委員会」と略す）に対し、戸田市上戸田2丁目20番5における156.34㎡の戸建専用住宅建設事業計画と埋蔵文化財の取り扱いについて相談があった。

市教育委員会では、事業計画が周知の埋蔵文化財包蔵地（前谷遺跡）内に所在しており、開発工事中に埋蔵文化財が発見される可能性が高いため、事業者に対して建設工事の着手前に試掘調査を実施するように指導した。

これを受け、平成28年4月12日に事業者から市教育委員会に対し、試掘調査の依頼書が提出され、試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は平成28年4月26日に実施した。試掘調査では、古墳時代前期の周溝状遺構、溝状遺構、井戸跡、土坑等の遺構を検出し、これに伴い、弥生時代末から古墳時代前期、平安～中世に帰属するものと考えられる土器を検出した。

この試掘調査結果に基づき、市教育委員会と事業者間で埋蔵文化財の保存について協議を行い、基礎工事等で埋蔵文化財の破壊を免れない部分（78.74㎡）は、記録保存のための緊急発掘調査、他の部分（77.60㎡）は遺構確認面から30cm以上の保護層を確保することにより埋蔵文化財の現状保存を実施することで合意した。

平成28年5月19日、事業者から文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、市教育委員会は平成28年5月20日付戸教生第208号にて埼玉県教育委員会（以下「県教育委員会」と略す）あてに達達した。

文化財保護法第93条の届出を受けて、県教育委員会から事業者に対し、平成28年6月13日付教生文第5-274号で、申請地内における工事着手前に発掘調査を実施するように指示があった。

発掘調査の実施にあたり、事業者は市教育委員会に対し、平成28年5月12日付で発掘調査の依頼書を提出した。また同月16日付戸教生第172号にて二者による「戸建専用住宅建設予定地に係る埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を締結した。

そして、文化財保護法第99条の規定に基づき、市教育委員会から県教育委員会あてに平成28年5月20日付戸教生第209号にて埋蔵文化財の通知を提出し、前谷遺跡第5次発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘調査と整理事業の方法と経過

1 発掘調査

前谷遺跡第5次調査は、平成28年6月1日から6月30日まで実施した。調査面積は78.74㎡である。6月1日に調査区を設定し、機材搬入を行った。機材等は調査区が狭小なため、戸田市福祉部福祉総務課より、上戸田保育園の園庭を借用し、機材を保管した。2日の午前より重機による表土剥ぎを実施し、掘削した排出土は調査区内に仮置きが不可能なため、ダンプにより調査区外へ運搬した。2日の午後から発掘調査補助員を動員し、人力により遺構確認を行い、遺構検出状況の写真撮影を行った。写真撮影は全てデジタル一眼レフカメラ Nikon D5100 を使用し、JPEG 形式にて撮影・記録した。3日から検出された遺構の立ち上がりを調査区壁面にて確認し、検出遺構のナンバリングや土層観察用のベルトを設定した後、遺構掘削を開始した。また、委託業者により測量基準杭の打設が行われた。4日から24日まで遺構掘削を行い、遺構平面図・土層観察ベルトの断面図作成、出土遺物の取り上げを適宜行った。平面図や出土遺物の取り上げは全て簡易遺り方測量で実施した。遺構掘削により生じた排出土は調査区南側に仮置きした。13日、21日は雨天により作業を中止した。雨天後、周溝状遺構や溝状遺構、井戸跡の掘削面から湧水が顕著に認められ、ポンプや人力により排水を行った。24日までに遺構掘削が完了し、25日から28日まで調査区壁面のうち、遺構が検出された壁面の土層断面図作成や、遺構及び調査区内のレベルングを行った。その後、27日には調査区全景写真及び遺構完掘状況の撮影を行った。28日午後から29日にかけて機材整理及び土嚢崩しを行い、30日からは、重機により調査区外へ運搬した排出土を調査区内へ埋め戻し、整地を行い、全ての発掘調査が完了した。発掘調査現場作業に要した実働日数は20日間であった。

2 整理事業

当該調査に係る出土品及び図面の整理事業、報告書作成は平成28年7月4日から平成30年3月9日まで、生涯学習課埋蔵文化財等整理室及び戸田市役所生涯学習課執務室で実施した。

発掘現場で採取した出土品は、洗浄・註記・接合を行った。その後、報告書掲載のものを抽出し、実測図作成・拓影採取を行った。採取した拓影はスキャナにてコンピュータへ取り込んだ後、Adobe Photoshop にて修正し、デジタルデータ化した。作成した遺物実測図や、発掘現場で作成した遺構平面図、土層断面図等の図面類についても、拓影と同様にスキャナでコンピュータに取り込み、デジタルデータ化を行った。そしてこれらの各種図面データは Adobe Illustrator にてデジタルトレースを行った。

遺物写真は Nikon D610、105mm 単焦点マクロレンズを使用して RAW(NEF) 形式で撮影した。そして Adobe Camera Raw により現像処理及びホワイトバランス、色調、レンズ等の補正を行い、TIFF 形式ファイルを作成した。また、作成した TIFF 形式ファイルを Adobe Photoshop にて縮尺し、背景等を調整した。全てのデータが完成した後、Adobe Illustrator、Adobe InDesign にて版下を作成し、INDD 形式ファイルにて入稿した。

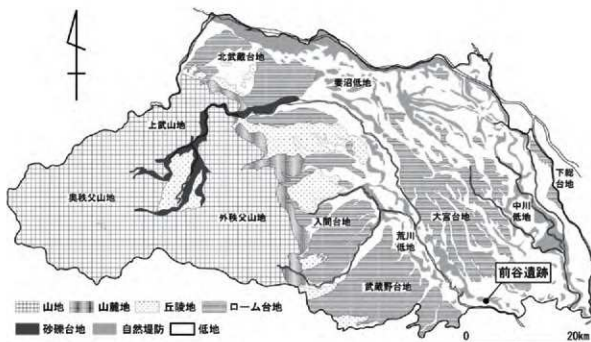
第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

第1節 地理的環境

戸田市は、埼玉県最南端部に位置し、東西約 6.0km、南北約 3.0m、面積 18.19 ㎢の東西に細長い形状を呈する。北はさいたま市、東は蕨市と川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市と和光市、南の東京都板橋区・北区と荒川を隔てて接している。市域には国道 17 号線（旧中山道）や新大宮バイパスが南北に走り、首都高速 5 号線や東京外郭環状道路、JR 埼京線の開通により交通の利便性が高まり、急激な市街地化が進んでいる。都心に近い立地のため、工場や流通センターが数多く所在する。

戸田市の地形は、関東北西部の山地から端を発する荒川によって形成された平坦な沖積低地（荒川低地）が全域を占める。荒川は氾濫や流路の変更によって市域の中央部を西は美女木から上戸田を通り、東は川口市にかけて微高地（自然堤防）を形成している。この微高地の南北に低地が割のように広がる。

前谷遺跡は、上戸田二丁目を中心に広がる遺跡である。JR 埼京線戸田公園駅から北東に約 700m、戸田駅から南東に約 900m の位置に所在し、東側に国道 17 号線（旧中山道）が南北に走る。現在は土地区画整理が行われ、宅地化が進んでいる。今回の調査区は荒川左岸に形成された標高約 3.5m ほどの自然堤防（微高地）上に立地する。この自然堤防は荒川旧河道に沿うように発達し、戸田市域では美女木から笹目を通り、本町、上戸田を抜けて川口市へと延びる。戸田市域における自然堤防上の標高は約 3.0 ～ 4.5m であり、低地部は約 2.5 ～ 3.0m ほどであるため、現在では平坦な地形が広がっている。

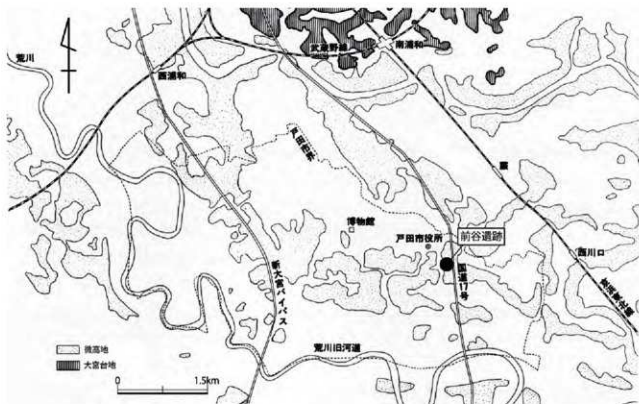


第1図 埼玉県の地形

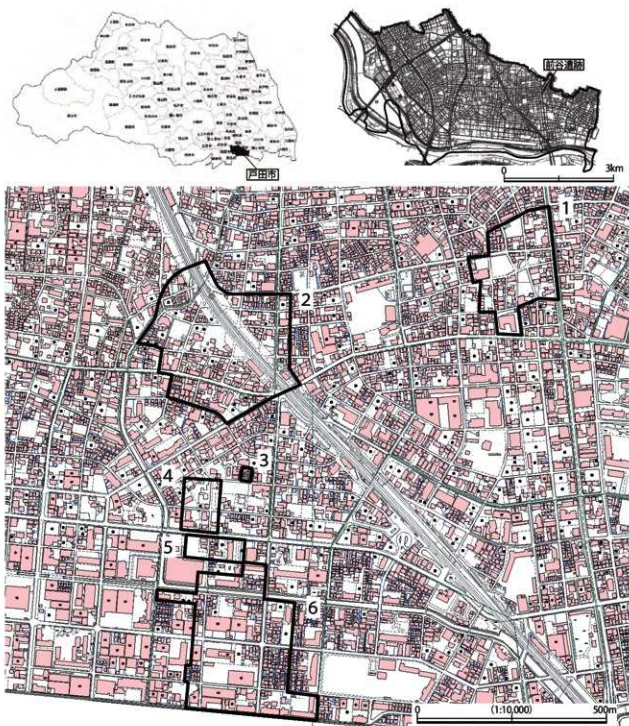
第2節 歴史的環境

戸田市では旧石器時代の遺構・遺物は確認されておらず、現在、縄文時代に帰属する遺跡は確認されていないが、縄文時代前期後葉から後期中葉までの土器片が検出されている。前期では、堤外から前期後葉諸磯A式の破片資料1点が出土しており、本町からは前期末、十三菩提式深鉢形土器の大型破片1点が出土している。中期は、中葉から後葉にかけての遺物が出土している。鍛冶谷・新田口遺跡では勝坂式や加曾利E式の破片資料の出土が報告されており、南原遺跡などでも阿玉台式や加曾利E式期の土器片が微量ながら検出されている。後期は、中葉から後葉の土器が検出されている。鍛冶谷・新田口遺跡では堀之内式、加曾利B式の土器片が出土しており、堤外からも同型式期に帰属する土器破片が出土している。

縄文時代後期後葉から弥生時代中期にかけての遺構・遺物は確認されていないが、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭になると、戸田市域の微高地上に遺跡が多く形成されるようになる。弥生時代後期末から古墳時代前期末では、前谷遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、南町遺跡、南原遺跡、上戸田本村遺跡、根木橋遺跡で遺構・遺物が検出されている。この中でも昭和51年に埼玉県選定重要遺跡に選定された鍛冶谷・新田口遺跡は、当該期の方形周溝墓（周溝状遺構）群や集落跡、木器の出土などから全国的に有名である。上戸田本村遺跡では2次・3次調査では環濠と思われる溝状遺構と、溝の東部に密集する竪穴住居跡群を検出していることから、上戸田本村遺跡周辺が当該期の環濠集落であった可能性が高い。中期の遺構・遺物が検出された



第2図 戸田市の地形



第1表 前谷遺跡及び周辺の遺跡位置図

NO.	遺跡名	所在地	種別	主な時代	立地
1	前谷遺跡	戸田市上戸田2丁目	集落跡・城郭跡	弥生後期・古墳前期・平安・鎌倉・南北朝・室町	自然堤防
2	南原遺跡	戸田市南町	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前/後期・奈良・平安・鎌倉	自然堤防
3	鍛冶谷・新田口遺跡	戸田市上戸田3・5丁目、本町3丁目、大字新曾	集落跡	弥生後期・古墳前期	自然堤防
4	大前遺跡	戸田市内町3丁目	集落跡	古墳前期・平安・南北朝・室町	自然堤防
5	上戸田本村遺跡	戸田市内町3丁目	集落跡・円墳	古墳後期	自然堤防
6	南町遺跡	戸田市南町	集落跡	古墳前期	自然堤防

遺跡は南原遺跡 2 次調査 B 区で竪穴住居跡 3 軒、9 次調査で井戸跡 1 基、10 次調査で竪穴住居跡 1 軒と土坑 2 基が確認されたのみである。古墳時代後期は、上戸田本村遺跡や南原遺跡周辺で群集墳が形成される時期である。上戸田本村遺跡内には「くまん塚」と呼ばれた円墳が所在していたとされ、墳丘の盛り土が僅かに残存しており、そこから横穴式石室の石材の一部と直刀 2 振が出土している。また、上戸田本村遺跡では 1 次調査において鬼高式期の竪穴住居跡 2 軒、4 次調査で馬形埴輪や人物埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が 1 基検出されている。南原遺跡では、2 次調査 A 区で円形周溝墓（円墳）1 基、3 次調査 D 区で鬼高式期の住居跡 1 軒と屋外竈 1 基、4 次調査で円形集溝墓（円墳）2 基、6 次調査で円形周溝墓（円墳）1 基、9 次調査で馬形埴輪、人物埴輪、家形埴輪、円筒埴輪等が出土した古墳周溝が 2 基検出されている。

平安時代は、南原遺跡や鍛冶谷・新田口遺跡、前谷遺跡で竪穴住居跡や、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑群、ピット列が検出されている。

中世は、市の西部からさいたま市の南西部がかつての佐々目郷（篠目・笹目）に該当し、鶴岡八幡宮の社領であったことが文献資料からわかっている。当該期は、大前遺跡や前谷遺跡、上戸田本村遺跡、南原遺跡、南町遺跡で掘立柱建物跡や溝状遺構、井戸跡が検出されている。前谷遺跡や南原遺跡、上戸田本村遺跡から断面が葉研状の溝状遺構が検出されており、『新編武蔵国風土記稿』による桃井播磨守の居城であったとされる「蔵城」「戸田の御所」の関連も指摘されるが、未だその明確な位置や検出された遺構との関連性については明らかになっていない。

近世は市の大半の村が幕府の直轄領であり、徳川家の高場であったことが分かっている。また、江戸五街道の一つである中山道の整備により荒川を渡るための「戸田の渡し」が板橋宿とわらび宿を結ぶ交通の要所として機能していたことが文献資料より分かっている。

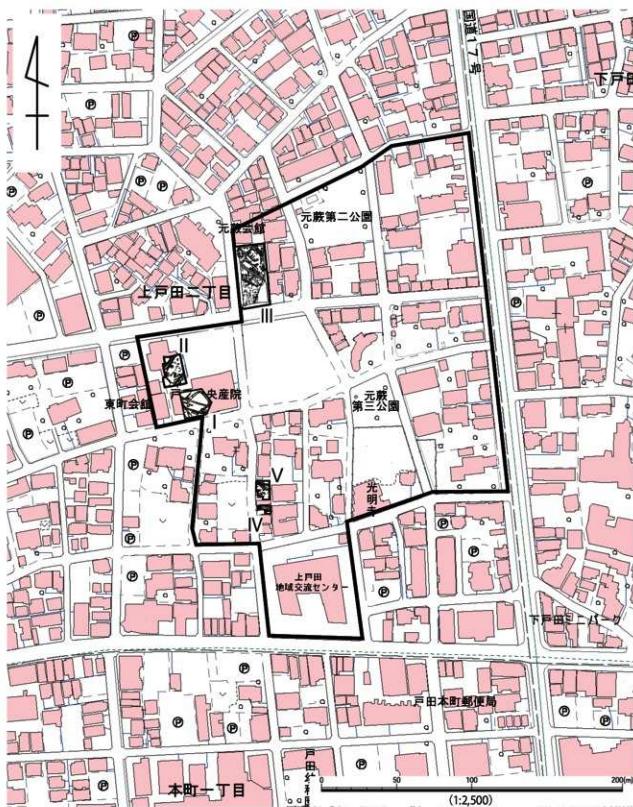
第3節 遺跡・調査の概要

前谷遺跡は JR 埼京線戸田公園駅から北東約 700m の埼玉県戸田市上戸田 2 丁目地内に所在する。遺跡周辺には「櫛溝」、「竹ノ内」、「左衛門屋敷」、「雑色」、「元蔵」等の地名が古くから残っており、土塁の一部であった可能性がある地膨れ状の地形が残存していたことから、かつて「蔵城」が存在した可能性が指摘されている。

本遺跡は昭和 47 年の第 1 次発掘調査から、4 年にわたる発掘調査が実施されている。

第 1 次発掘調査は、昭和 47 年 8 月 23 日から 9 月 6 日までの期間で、店舗建設に伴う緊急発掘調査として市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭の周溝状遺構 2 基と平安時代から中世の溝状遺構を 8 条などである。遺物は、周溝状遺構から、複合口縁を持つ壺形土器や台付き甕形土器、広口壺形土器、高坏などが出土しており、溝状遺構からは、第 3 溝から 10 世紀代に比定できる灰釉陶器や須恵器、土師器などが検出されている。また、第 4 溝は断面形状が葉研状を呈しており、中世城館の堀であった可能性が指摘されている。

第 2 次発掘調査は、平成 19 年 2 月 13 日から 3 月 20 日までの期間で、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古



- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| I 第1次調査(1972) | : 戸田市教育委員会調査(伊藤1978) |
| II 第2次調査(2007) | : 戸田市教育委員会調査(岩井2014) |
| III 第3次調査(2011) | : 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査(赤熊2012) |
| IV 第4次調査(2011~2012) | : 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査(岩井2015) |
| V 第5次調査(2017) | : 戸田市教育委員会調査(本報告) |

第4図 前谷遺跡調査区位置図

墳時代前期初頭の周溝状遺構 2 基、平安時代の掘立柱建物跡 1 棟、溝状遺構 3 条、中世の溝状遺構ある柵列跡 4 列、土坑 4 基、ピット 4 3 基である。出土遺物は、弥生時代後期から古墳時代前 2 条、井戸跡 2 基、土坑 1 基、その他時期不明であるが平安時代から中世に帰属する可能性が期初頭の土器、平安時代の瓦塔片、土師器、須恵器、中世の陶器、漆器、板碑、その他土製鈴鉾車や砥石などである。これらの中でも詳細な時期・産地は不明であるが、第 5 号溝状遺構から出土した線刻画が施された須恵器瓶の破片資料は、他に類例が少なく、特筆できる。

第 3 次発掘調査は、平成 23 年 12 月 1 日から平成 24 年 1 月 31 日までの期間で、戸建分譲住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は古墳時代前期の周溝状遺構や井戸跡、古墳時代後期の土坑、平安時代の土坑、井戸跡、溝跡、ピット、中・近世の溝跡、井戸跡などである。遺物は、周溝状遺構 6 基からは複合口縁を持つ壺形土器や甕形土器、台付甕形土器、無頸壺などが出土している。また、古墳時代後期の土坑からは、赤彩された比企型の坏や須恵器模倣坏などが出土している。平安時代以降では、土坑や井戸、溝跡から 8～9 世紀の東金子や南比企、末野産の須恵器、中世の常滑焼、近世の天目茶碗等が出土している。

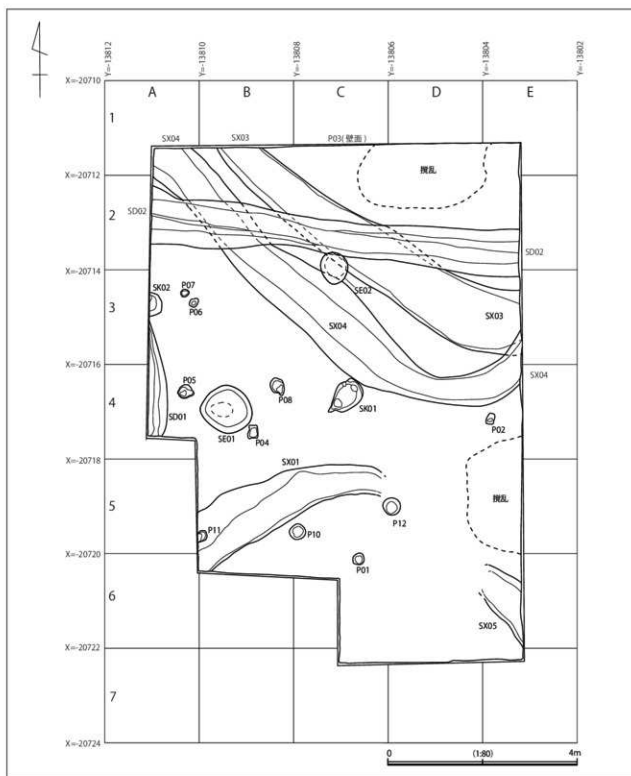
第 4 次調査は平成 23 年 12 月 26 日から平成 24 年 1 月 18 日までの期間で戸建専用住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構 1 基、溝状遺構 1 条、平安時代の溝状遺構 3 条、その他時期不明のピット 2 基を検出した。出土遺物は弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器、平安時代の土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦塔片、中世の陶器等を検出した。

本調査は第 5 次の発掘調査となる。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構 4 基、同時代の溝状遺構 1 条、平安～中世相当の溝状遺構 1 条、土坑 2 基、井戸跡 2 基、ピット 11 基を検出した。出土遺物は土師器、須恵器、陶器、ロクロ土師器が出土した。

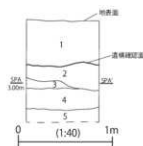
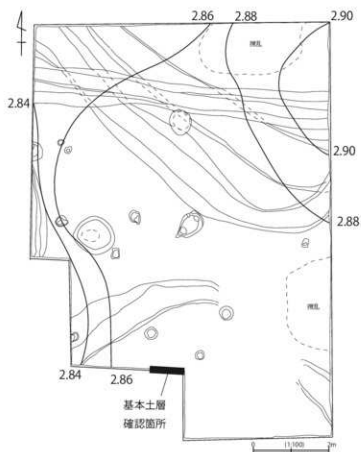
第 4 節 基本土層

基本土層は B・C－6 グリッドで確認し、地表面下 1.3m まで堆積を確認し、1～5 層に分層した。(第 5・6 図) また、本調査区の遺構確認面の標高は、2.90～2.84m であり、顕著な起伏はなく、ほぼ平坦である。Ⅰ層は表土攪乱層であり、現代の攪乱の影響を受けている。大小の円礫や瓦礫を多く含む。なお、本層のみ各遺構の土層説明のⅠ層に対応している。Ⅱ層はにぶい黄褐色の粘質土層であり、本層の上面において遺構を検出したため、遺構確認面として認識した。Ⅲ層は粘性が若干あるが、しまりが乏しく砂性である。また酸化鉄が少量みられた。Ⅳ層は黄褐色で粘性はなく、しまりも弱い。Ⅲ層よりも砂性がより強い。Ⅴ層はにぶい黄色で粘性はなく、しまりが弱い。1 cm 大の酸化鉄がややみられた。

総じてⅡ層以下は自然堆積層であり、Ⅱ層は粘性・しまりが共に強く、乾燥すると硬化する土質である一方で、Ⅲ～Ⅴ層は砂質が強く、粒子が細かい。このⅢ～Ⅴ層は河川からの氾濫による可能性が考えられる。Ⅱ層堆積直後の安定した土壌に弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭に遺跡が形成されたことが想定できる。



第 5 図 調査区全体図



基本土層

- 1層 表土攪乱層 瓦礫を多く含む
- 2層 色調：10YR5/4 (にぶい黄褐) しまり：強い 粘性：あり
含有物：φ1~3mm 酸化鉄粒中量 φ1~2cm の黒褐色ブロック中量 1mm 黒色粒子微量 上面を遺構確認面に設定
- 3層 色調：2.5Y6/4 (にぶい黄) しまり：なし 粘性：若干あり 含有物：φ1cm 灰褐色ブロック少量 φ0.5mm~1cm 酸化鉄粒少量 1~3mm 酸化鉄粒微量
- 4層 色調：2.5Y6/4 (黄褐) しまり：弱い 粘性なし 含有物：φ0.5~1cm 褐色ブロック少量 3~5mm 黄褐色粒子少量 φ1~2cm 酸化鉄粒少量 φ5mm 酸化鉄粒微量
- 5層 色調：2.5Y6/4 (にぶい黄) しまり：弱い 粘性：弱い 含有物：1cm 褐色ブロック少量 φ1cm 酸化鉄粒中量 φ5mm 黄褐色粒子少量

第6図 等高線・基本土層図

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の遺構と遺物

1 周溝状遺構

第1号周溝状遺構-SX01

遺構（第7図 図版2・1・2）

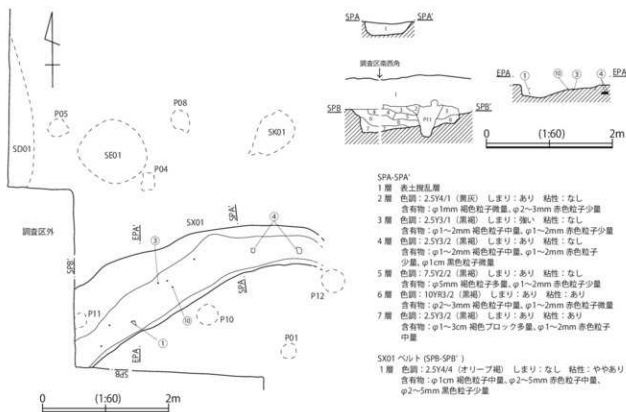
位置：A～C－5・6グリッド。重複関係：P11に切られる。平面形・規模：西側が調査区外へ位置しており、全体形状は不明である。また、周溝先端部は不明である。長さ4.47m、上端幅1.15～0.6m、下端幅0.68～0.35m。確認面からの深さは0.42mである。断面形状は薄い箱形である。北側の立ち上がりは緩やかで蛇行する。主軸方位：N－45°－E。覆土：1箇所覆土を観察した。8層に分層し、自然堆積である。

遺物（第8図、第2表、図版7）

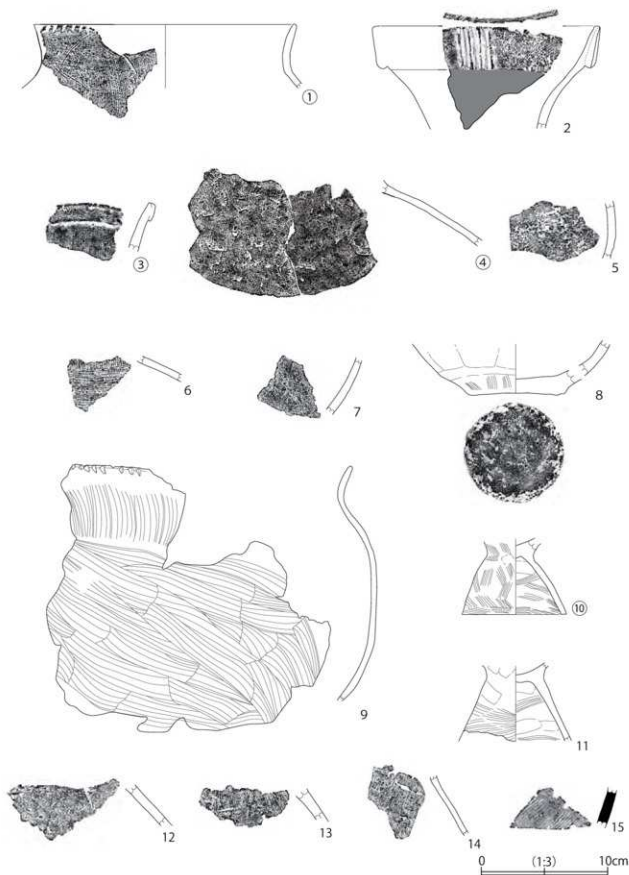
出土状況：本遺構からは96点、1766.7gの遺物が出土した。弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器95点（1,748.3g）、平安時代相当の須恵器1点（18.4g）である。

時期

遺構及び出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



第7図 第1号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図（SX01）



第8図 第1号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX01)

第2表 第1号周溝状遺構出土遺物観察表

押出番号 図版番号	出土 遺構	観察 部位	位置 口縁 高さ 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	製成	色調	備考
8-①	SK01	土師器 甕	口縁部	[20.4] —	46.2	外面 口唇部：ハケメ（横）→縁付 工具による削突 胴部：ハケ メ（横・縦） φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm以下褐色粒子少量	外面 黒褐色（SY83/1） 内面 にごい・黄（SY86/3）		
7-SK01-①					内面 ハケメ（横）→ナデ				
8-2	SK01	土師器 甕	口縁部	[19.6] —	77.7	外面 粘土帯貼付、縄文Rの施文 →4条の棒状浮文 φ1～2mm白色粒子少量 φ1～2mm赤色粒子微量 φ1mm以下金雲母片微量	外面 赤赤褐色：黄（SY87/4） 赤褐色：赤（1084/4） 内面 赤赤褐色：黄（7. SY87/4） 赤褐色：赤（7. 584/4）	内外面赤影	
7-SK01-2					内面 ナデ（横）				
8-③	SK01	土師器 甕	口縁部	—	29.3	外面 粘土帯貼付→ナデ（横） 口唇直下：ナデ（縦） φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm金雲母片微量 φ1～2mm赤色粒子少量	外面 にごい・黄（7. SY87/3） 内面 赤（1084/4）		
7-SK01-③					内面 ナデ（横）				
8-④	SK01	土師器 甕	胴部	—	115.0	外面 ヘラナデ（縦）→ナデ（縦） φ1～3mm褐色粒子少量 φ1mm以下金雲母片少量 φ1～2mm白色粒子微量	外面 にごい・黄（SY86/4） 内面 暗赤褐色（SY83/2）		
7-SK01-④					内面 ヘラナデ（横）				
8-5	SK01	土師器 甕	胴部	—	27.5	外面 ナデ φ1～2mm赤色粒子少量 φ1mm以下白色粒子中量 φ2～3mm褐色粒子少量	外面 黄（SY86/4） 内面 黒灰（1085/4）	外面赤影	
7-SK01-⑤					内面 ハケメ（縦）→ナデ				
8-6	SK01	土師器 甕	胴部	—	14.6	外面 ハケメ（縦）→ハケメ（横） φ1mm以下白色粒子中量 φ1～2mm赤色粒子微量 φ2～3mm赤色粒子少量	外面 黒（2. 672/1） 内面 黒灰（1085/1）		
7-SK01-6					内面 ナデ				
8-7	SK01	土師器 甕	胴部	—	15.9	外面 ヘラナデ（縦） φ1mm以下白色粒子少量 φ2～3mm白色粒子微量 φ3mm褐色粒子微量 φ1mm以下赤色粒子微量	外面 にごい・赤褐（2. SY85/4） 内面 灰褐（7. SY84/2）		
7-SK01-7					内面 ヘラナデ（横）				
8-8	SK01	土師器 甕	底部	[3.9] [7.4]	183.8	外面 ハケメ（縦）→ヘラナデ（縦） φ1～2mm赤色粒子少量 φ2～5mm褐色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	外面 黄（SY87/4） 内面 にごい・黄（SY87/4）		
7-SK01-8					内面 ナデ				
8-9	SK01	土師器 台付甕	口縁→ 胴部	[18.6] —	373.9	外面 口唇→ヘラ状工具による削突 ハケメ（縦・斜め） φ1～2mm褐色粒子少量 φ1～2mm白色粒子少量 φ1mm赤色粒子少量	外面 にごい・黄（7. SY87/4） 内面 浅黄褐（7. SY88/4）		
7-SK01-9					内面 ナデ（横）				
8-⑩	SK01	土師器 台付甕	胴部	[6.0] [8.3]	148.3	外面 ハケメ（縦） 胴部末端ハケメ （横） φ1mm以下白色粒子中量 φ2～3mm赤色粒子中量 φ1mm以下金雲母片微量	外面 にごい・黄（7. SY86/3） 内面 黒灰（7. SY84/1）		
7-SK01-⑩					内面 ハケメ（横）				
8-11	SK01	土師器 台付甕	胴部	[7.0] [8.3]	149.9	外面 外面 ハケメ（縦）→ナデ φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm褐色粒子中量 φ1mm以下金雲母片微量	外面 にごい・黄（7. SY86/4） 内面 黒褐色（7. SY83/1）		
7-SK01-11					内面 内面 ハケメ（横）				
8-12	SK01	土師器 台付甕	胴部	—	28.5	外面 ヘラナデ（横） φ1mm以下白色粒子少量 φ1～2mm褐色粒子少量 φ1～2mm赤色粒子少量	外面 にごい・黄（7. SY85/3） 内面 にごい・黄（SY87/4）		
7-SK01-12					内面 ナデ→ハケメ（横）				
8-13	SK01	土師器 台付甕	胴部	—	34.7	外面 ハケメ（縦） φ1～2mm赤粒少量 φ1mm以下白粒中量	やや良 外面 にごい・黄（SY87/4） 内面 黒褐色（SY83/1）		
7-SK01-13					内面 ヘラナデ				
8-14	SK01	土師器 台付甕	胴部	—	15.0	外面 外面 ハケメ（縦）→ナデ φ1mm以下金雲母片微量	やや良 外面 赤（1084/4） 内面 赤（1085/4）	内外面赤影	
7-SK01-14					内面 内面 ヘラナデ φ1mm以下白色粒子微量				
8-15	SK01	須恵器 杯	胴部	—	18.4	外面 タタキ 底部同軸面切跡 φ1～2mm白色粒子少量 φ1mm以下褐色粒子微量	外面 灰（96/1） 内面 灰白（97/1）		
7-SK01-15									

第3号周溝状遺構-SX03

遺構（第9・10図 図版3-1）

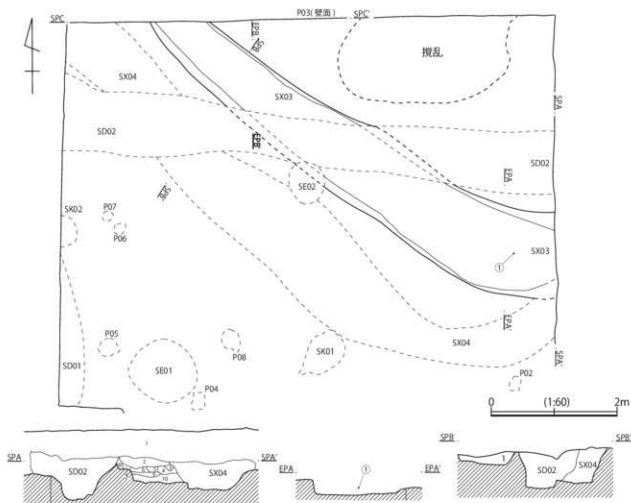
位置：B～E-1～3グリッド。重複関係：SX04、SD02、SE02に切られる。平面形・規模：東・西側が調査区外へ位置しており、調査区内では緩やかに弧状を呈す。調査区東壁付近で若干の角を持つ可能性がある。全体は隅丸方形状である可能性がある。長さ7.75m前後、上端幅1.45～0.78m、下端幅1.20～0.58m。確認面からの深さは約0.55mである。断面形状は薄い箱形であり、北側では逆台形状である。底面は比較的平坦である。主軸方位：N-42°-E。覆土：3箇所所で覆土を観察した。最大9層に分層し、いずれも自然堆積と考えられる。

遺物（第11図、第3表、図版7）

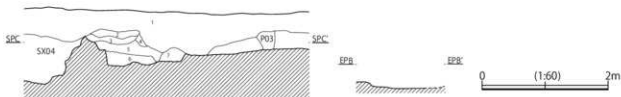
出土状況：本遺構からは227点、770.6gの遺物が出土した。弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器193点(609.8g)、平安時代相当の須恵器30点(147.7g)、ロクロ土師器2点(6.3g)、礫2点(7.6g)である。

時期

遺構及び出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



第9図 第3号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図 (SX03) (1)



SPA-SPA'

- 1層 表土掘乱層
- 2層 色調: 2.5Y3/2 (黒褐) しまり: 強い 粘性: なし 含有物: $\phi 1\sim 2\text{mm}$ 褐色粒子中量
- 3層 色調: 7.5YR2/2 (黒褐) しまり: 強い 粘性: なし 含有物: $\phi 0.5\sim 1\text{cm}$ 褐色ブロック少量, $\phi 2\text{mm}$ 炭化物少量
- 4層 色調: 10YR4/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし 含有物: $\phi 1\text{cm}$ 褐色ブロック少量, $\phi 2\sim 3\text{mm}$ 褐色粒子少量, $\phi 1\text{mm}$ 黒色粒子微量
- 5層 色調: 2.5Y3/1 (黒褐) しまり: なし 粘性: なし 含有物: $\phi 1\text{cm}$ 褐色ブロック少量, $\phi 1\sim 2\text{mm}$ 褐色粒子少量, $\phi 1\sim 2\text{mm}$ 赤色粒子微量
- 6層 色調: 2.5Y3/2 (黒褐) しまり: 強い 粘性: なし 含有物: $\phi 2\sim 3\text{mm}$ 褐色粒子中量, $\phi 1\sim 2\text{mm}$ 赤色粒子少量
- 7層 色調: 10YR4/1 (黒褐) しまり: なし 粘性: なし 含有物: $\phi 1\sim 2\text{mm}$ 褐色粒子中量, $\phi 1\text{mm}$ 明褐色粒子少量
- 8層 色調: 2.5Y3/2 (黒褐) しまり: 強い 粘性: なし 含有物: $\phi 1\sim 2\text{mm}$ 褐色粒子中量
- 9層 色調: 7.5Y2/1 (黒) しまり: 強い 粘性: なし 含有物: $\phi 1\text{mm}$ 褐色粒子中量, $\phi 2\sim 3\text{mm}$ 赤色粒子微量
- 10層 色調: 5YR3/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし 含有物: $\phi 3\sim 5\text{mm}$ 褐色粒子中量, $\phi 3\text{mm}$ 暗赤色粒子少量, $\phi 3\sim 5\text{mm}$ 黒色粒子少量

SPB-SPB'

- 1層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: 強い 粘性: ややあり 含有物: $\phi 1\sim 2\text{cm}$ 赤褐色粒子中量

SPC-SPC'

- 1層 表土掘乱層
- 2層 色調: 7.5YR5/1 (褐灰) しまり: あり 粘性: なし 含有物: $\phi 1\text{cm}$ 褐色ブロック少量, $\phi 2\sim 5\text{mm}$ 褐色粒子少量, $\phi 1\sim 2\text{mm}$ 炭化物少量
- 3層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし 含有物: $\phi 1\sim 1.5\text{cm}$ 褐色ブロック少量, $\phi 1\text{cm}$ 赤色ブロック中量, 5mm 炭化物少量
- 4層 色調: 10YR3/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし 含有物: $\phi 1\text{cm}$ 褐色ブロック中量, $\phi 2\text{mm}$ 褐色粒子少量
- 5層 色調: 7.5YR4/1 (褐灰) しまり: あり 粘性: あり 含有物: $\phi 3\sim 5\text{mm}$ 褐色ブロック中量, $\phi 2\sim 3\text{mm}$ 赤色粒子少量
- 6層 色調: 2.5Y3/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: あり 含有物: $\phi 1\text{cm}$ 赤褐色ブロック少量, $\phi 5\text{mm}$ 赤色粒子微量
- 7層 色調: 10YR5/1 (褐灰) しまり: なし 粘性: ややあり 含有物: $\phi 2\sim 3\text{mm}$ 褐色粒子少量, $\phi 2\sim 3\text{mm}$ 赤色粒子少量, $\phi 1\text{cm}$ 炭化物微量

第10図 第3号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図(SX03)(2)



第11図 第3号周溝状遺構出土遺物実測図(SX03)

第3表 第3号周溝状遺構出土遺物観察表

探洞番号 図面番号	出土 遺構	種類 部材	部位	法量(m) 口徑 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
11-①	SX03	土器器 蓋	口縁部	[12.3] [6.8] -	161.0	外面 ハケメ (縦・斜め)	$\phi 1\sim 2\text{mm}$ 赤色粒子少量 $\phi 1\sim 2\text{mm}$ 褐色粒子中量	良	外面 浅黄褐色(7.5YR8/4)	
7-SX03-①						内面 ハケメ (縦・斜め)	$\phi 1\text{mm}$ 以下白色粒子少量		内面 にぶい・橙(7.5YR7/4)	
11-2	SX03	土器器 蓋	口縁部	-	12.8	外面 ハケメ(縦)	$\phi 1\text{mm}$ 以下金雲母片微量 $\phi 1\text{mm}$ 以下白色粒子少量	やや 良	外面 赤(10R4/6)	
7-SX03-2						内面 ヘラナデ(横)	$\phi 1\sim 3\text{mm}$ 赤色粒子少量		内面 暗赤灰(10R3/1)	
11-3	SX03	土器器 台付甕	脚部	-	15.9	外面 ハケメ(縦)	$\phi 1\text{mm}$ 以下金雲母片微量 $\phi 1\text{mm}$ 褐色粒子中量	良	外面 橙(2.5YR6/6)	
7-SX03-3						内面 ハケメ(横)	$\phi 1\sim 5\text{mm}$ ノコ少量 $\phi 1\sim 2\text{mm}$ 赤色粒子微量		内面 橙(5YR6/6)	
11-4	SX03	須恵器 弁	底部	-	13.0	ロク口成形 底部回転糸切痕	白色針状物質少量 $\phi 1\text{mm}$ 以下金雲母片微量	良	外面 灰白(7.5Y7/1)	南北産
7-SX03-4							$\phi 1\text{mm}$ 白色粒子少量		内面 灰白(7.5Y7/1)	
11-5	SX03	須恵器 甕	口縁部	-	44.8	ロク口成形	$\phi 1\sim 3\text{mm}$ 白色粒子少量 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ 褐色粒子少量	良	外面 灰(N4/)	
7-SX03-5									内面 灰(N5/)	

第4号周溝状遺構-SX04

遺構（第12・13図 図版3-1・2）

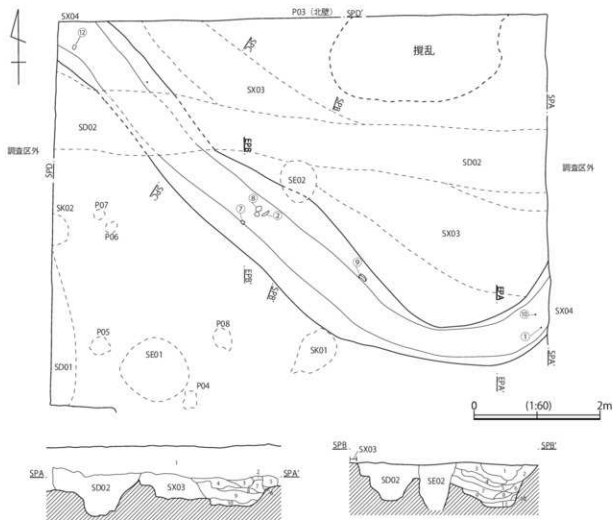
位置：A～E-1～4グリッド。重複関係：SD02、SE02に切られ、SX03を切る。平面形・規模：東・西側が調査区外へ位置しており、調査区内では緩やかに弧状を呈す。東側寄りで角を持つ。北側の上端が蛇行しており、調査区東壁付近でやや幅狭となる。長さ約9.63m、上端幅1.30～0.68m、下端幅0.57～0.42m。確認面からの深さは約0.75mである。断面形状は逆台形状である。底面は比較的平坦である。主軸方位：N-41°-E。覆土：4箇所で覆土を観察した。最大11層に分層し、いずれも自然堆積と考えられる。

遺物（第14図、第4表、図版8）

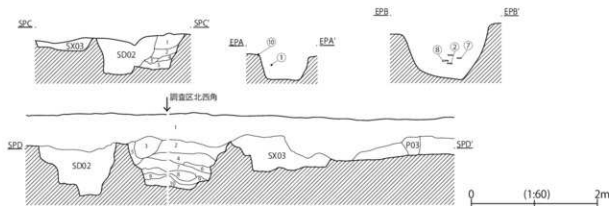
出土状況：本遺構からは70点、1,536.3gの遺物が出土した。弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器66点（1,481.0g）、平安時代相当の須恵器3点（51.1g）、礫1点（4.2g）である。

時期

遺構及び出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



第12図 第4号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図(SX04)(1)



SPA-SPA'

- 1層 表土層(黒褐) しまり：あり 粘性：ややあり 含有物：φ1~2mm 赤色粘土中量
- 2層 色調：2.5Y3/1 (黒褐) しまり：あり 粘性：ややあり 含有物：φ3~5mm 褐色粘土中量、φ3~5mm 赤色粘土中量
- 3層 色調：10YR3/1 (黒褐) しまり：強い 粘性：なし 含有物：φ2~3mm 褐色粘土中量、φ1~2mm 赤色粘土中量
- 4層 色調：10YR5/1 (黒褐) しまり：あり 粘性：ややあり 含有物：φ2~3mm 褐色粘土中量、φ2~3cm 赤色ブロック中量、0.5~1cm 炭化物中量
- 5層 色調：2.5YR3/2 (黒褐) しまり：あり 粘性：なし 含有物：φ0.5~1cm 褐色ブロック中量、φ1~3mm 赤色粘土中量、φ2mm 黒色粘土中量
- 6層 色調：2.5Y3/1 (黒褐) しまり：あり 粘性：なし 含有物：φ1~2cm 褐色ブロック中量、φ5mm 赤色粘土中量
- 7層 色調：10YR4/1 (黒褐) しまり：なし 粘性：ややあり 含有物：φ2~3mm 褐色粘土中量、φ1~2mm 赤色粘土中量
- 8層 色調：2.5YR2/2 (黒褐) しまり：あり 粘性：なし 含有物：φ1cm 褐色ブロック中量、φ1cm 赤色ブロック中量、φ0.5~1cm 炭化物中量
- 9層 色調：2.5Y4/1 (黄灰) しまり：あり 粘性：あり 含有物：φ1~1.5cm 褐色ブロック中量、φ1~1.5cm 赤色ブロック中量、φ1~3mm 褐色粘土中量

SPB-SPB'

- 1層 色調：10YR6/6 (黄褐) しまり：強い 粘性：なし 含有物：φ5mm 赤色粘土中量、φ1~2mm 黒色粘土中量、φ1cm 黒色ブロック中量
- 2層 色調：2.5YR4/1 (黒灰) しまり：強い 粘性：なし 含有物：φ1~2mm 赤色粘土中量、φ5mm 赤色粘土中量
- 3層 色調：2.5Y4/1 (黄灰) しまり：強い 粘性：なし 含有物：φ0.5~1cm 褐色粘土中量
- 4層 色調：2.5Y5/1 (黄灰) しまり：強い 粘性：ややあり 含有物：φ1cm 褐色ブロック中量、φ2~3mm 赤色粘土中量、φ0.5~1cm 褐色粘土中量
- 5層 色調：10YR3/3 (暗褐) しまり：あり 粘性：あり 含有物：φ1cm 褐色粘土中量、φ0.5~1cm 赤色粘土中量
- 6層 色調：2.5Y5/1 (黄灰) しまり：あり 粘性：あり 含有物：φ3~5mm 赤色粘土中量、φ1cm 灰色粘質ブロック中量
- 7層 色調：5Y4/1 (灰) しまり：あり 粘性：強い 含有物：φ2~3mm 褐色粘土中量、φ1~3mm 赤色粘土中量
- 8層 色調：10YR3/1 (黒褐) しまり：あり 粘性：強い 含有物：φ1~2mm 褐色粘土中量、φ5mm 灰色粘質ブロック中量、φ1~3mm 赤色粘土中量
- 9層 色調：2.5Y3/2 (黒褐) しまり：あり 粘性：強い 含有物：φ1cm 赤色粘土中量、φ5mm 灰色粘質ブロック中量、φ1~3mm 赤色粘土中量
- 10層 色調：10YR3/2 (黒褐) しまり：あり 粘性：強い 含有物：φ2~5cm 灰色粘質ブロック中量、φ1~2mm 赤色粘土中量
- 11層 色調：2.5Y2/1 (黒) しまり：あり 粘性：とても強い 含有物：φ1~3mm 褐色粘土中量、φ1cm 灰色粘質ブロック中量

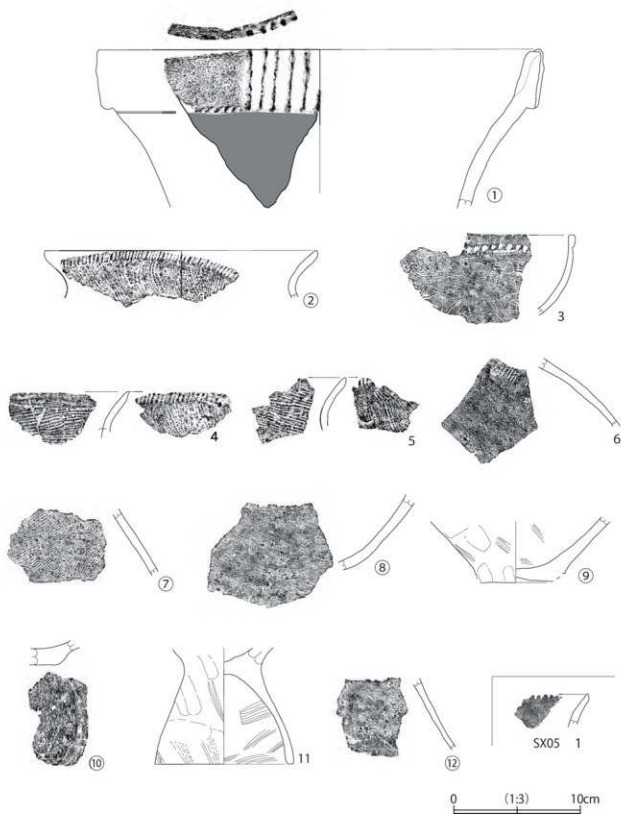
SPC-SPC'

- 1層 色調：10YR3/1 (黒褐) しまり：強い 粘性：なし 含有物：φ1~3cm 黄褐色ブロック中量、φ5mm 赤色粘土中量
- 2層 色調：2.5Y3/3 (暗オリーブ褐) しまり：弱い 粘性：ややあり 含有物：φ3~4mm 赤色粘土中量、φ2~3mm 赤褐色粘土中量
- 3層 色調：7.5YR3/2 (黒褐) しまり：強い 粘性：あり 含有物：φ1cm 黄色ブロック中量
- 4層 色調：2.5Y4/1 (黄灰) しまり：弱い 粘性：弱い 含有物：φ2~5mm 赤色粘土中量
- 5層 色調：2.5Y3/3 (暗オリーブ褐) しまり：あり 粘性：強い 含有物：φ5~10mm 赤色粘土中量

SPD-SPD'

- 1層 表土層(黒褐) しまり：あり 粘性：なし 含有物：φ2~3mm 褐色粘土中量、φ1mm 赤色粘土中量、φ5mm 炭化物中量
- 2層 色調：10YR4/1 (黒灰) しまり：あり 粘性：なし 含有物：φ2~3mm 褐色粘土中量、φ3~4mm 赤色粘土中量、φ5mm 炭化物中量
- 3層 色調：10YR3/1 (黒褐) しまり：なし 粘性：ややあり 含有物：φ1cm 褐色ブロック中量、φ5mm 赤色粘土中量、φ1~3mm 炭化物中量
- 4層 色調：2.5Y4/1 (黄灰) しまり：あり 粘性：なし 含有物：φ1~2mm 褐色粘土中量、φ1~2mm 赤色粘土中量
- 5層 色調：10YR2/2 (黒褐) しまり：あり 粘性：なし 含有物：φ2mm 褐色粘土中量、φ3mm 赤色粘土中量
- 6層 色調：7.5YR3/2 (黒褐) しまり：なし 粘性：ややあり 含有物：φ1~3mm 褐色粘土中量、φ3mm 炭化物中量
- 7層 色調：10YR4/1 (黒灰) しまり：あり 粘性：あり 含有物：φ5mm 赤色ブロック中量、φ1~2mm 赤色粘土中量、φ3mm 炭化物中量
- 8層 色調：2.5YR4/1 (黄灰) しまり：あり 粘性：あり 含有物：φ1cm 褐色粘土中量、φ2~3mm 褐色粘土中量、φ3~5mm 赤色粘土中量
- 9層 色調：5YR2/1 (黒褐) しまり：ややあり 粘性：強い 含有物：φ0.5~1cm 褐色ブロック中量、φ0.5~1cm 赤色ブロック中量、φ3mm 赤色粘土中量

第13図 第4号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図(SX04)(2)



第 14 图 第 4 号・5 号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX04)

第4表 第4号周溝状遺構出土遺物観察表

発掘番号	出土遺物	種類	部位	法量(m) 口徑 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
13-①	SX04	土師器 壺形	口縁部	[35.2] [11.2] -	199.3	外面 5cm餘部貼付→等直下に 棒状による刺突 6条の 棒状浮文	φ1~2mm赤色粒子少量 φ1~2mm褐色粒子少量 φ3~5mm小磯少量	外面	赤赤彩部: 橙(SY92/6) 赤彩部: 赤(10B4/6)	内外赤彩 東海系か
8-SX04-①						内面 ヘラナデ(横)		内面	赤赤彩部: 浅黄橙 (7. SY95/3) 赤彩部: 暗赤(10B2/6)	
13-②	SX04	土師器 壺形	口縁部	[21.4] [3.7] -	42.7	外面 ハケメ(横) 棒状刺突幅 2mm 口唇刻み	φ1mm以下金雲母片少量 φ1~2mm褐色粒子少量 φ3~5mm赤色粒子少量	外面	黒褐(7. SY93/2)	
8-SX04-②						内面 ハケメ(横)		内面	にぶい橙(7. SY95/4)	
13-3	SX04	土師器 壺形	口縁部	-	52.3	外面 ハケメ(横)→棒状刺突	φ2~4mm褐色粒子少量 φ1~3mm赤色粒子少量	外面	赤赤彩部: 浅黄橙 (7. SY95/3) 赤彩部: 赤(10B4/6)	内外赤赤彩 塔の可能性有 り
8-SX04-3						内面 ヘラナデ(横)		内面	赤赤彩部: 浅黄橙 (7. SY95/3) 赤彩部: 赤(10B4/6)	
13-4	SX04	土師器 壺形	口縁部	-	21.3	外面 ハケメ(横)、口唇ヘラ状 工具刺突 幅7mm	φ1~3mm赤色粒子少量 φ1~2mm褐色粒子少量	外面	黒褐(10B3/2)	
8-SX04-4						内面 ハケメ(横)→ヘラナデ		内面	灰褐(7. SY94/2)	
13-5	SX04	土師器 壺形	口縁部	-	15.8	外面 ハケメ(横)、口唇ヘラ状 工具刺突	φ1~3mm赤色粒子中量 φ1~2mm褐色粒子少量	外面	褐灰(SY94/1)	
8-SX04-5						内面 ハケメ(横)		内面	にぶい橙(7. SY97/3)	
13-6	SX04	土師器 壺形	胴部	-	45.1	外面 ハケメ(横)ナデ(横)	1mm以下金雲母片少量 φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm褐色粒子少量	やや良	灰白(10B8/2)	外紫系か
8-SX04-6						内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm褐色粒子少量	良	灰白(10B8/2)	
13-⑦	SX04	土師器 壺形	胴部	-	43.4	外面 3段文1段施文2段区画	φ3~5mm赤色粒子少量 φ1mm以下褐色粒子少量	外面	赤赤彩部: にぶい褐 (7. SY95/2) 赤彩部: 赤(10B4/6)	
8-SX04-⑦						内面 ナデ		内面	にぶい橙(7. SY97/4)	
13-⑧	SX04	土師器 壺形	胴部→ 底部	-	87.6	外面 外面 赤彩 ヘラナデ(横)	φ1mm以下金雲母片少量 φ1~2mm赤色粒子少量 φ1~2mm褐色粒子少量	外面	赤(10B5/6)	外面赤彩
8-SX04-⑧						内面 内面 ヘラナデ(横)		内面	褐灰(SY94/1)	
13-⑨	SX04	土師器 壺形	底部	[4.8] [5.6]	215.1	外面 ヘラナデ(横) 一部ハケメ (横)	φ1mm以下白色粒子少量 φ1~2mm褐色粒子少量 φ1~2mm赤色粒子少量	外面	橙(SY95/6)	
8-SX04-⑨						内面 ナデ		内面	にぶい橙(7. SY97/4)	
13-⑩	SX04	土師器 壺形	底部	-	51.1	外面 ヘラナデか	φ1~3mm褐色粒子中量 φ1mm以下金雲母片少量 φ1~3mm赤色粒子少量	やや良	にぶい橙(7. SY97/3)	外面赤彩
8-SX04-⑩						内面 ナデか		内面	褐灰(10B6/1)	
13-11	SX04	土師器 台付壺	脚部	[30.8] [36.9]	342.8	外面 ハケメ(横)→ヘラナデ(横)	φ1~5mm褐色粒子中量 φ1mm以下白色粒子少量 φ5mm赤色粒子少量	外面	橙(SY97/6)	
8-SX04-11						内面 ハケメ(横)→ナデ		内面	橙(2. SY95/6)	
13-⑫	SX04	土師器 台付壺	脚部	-	25.2	外面 ハケメ(横)	φ3~5mm赤色粒子少量 φ1~3mm褐色粒子少量	外面	明赤褐(SY95/6)	
8-SX04-⑫						内面 ヘラナデ(横)		内面	黒褐(SY92/1)	

第5号周溝状遺構 -SX05

遺構 (第15図 図版4-1)

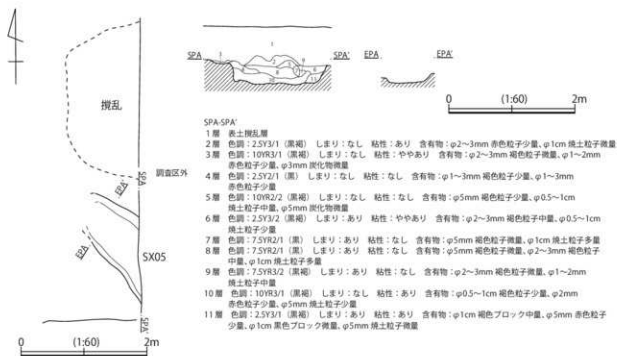
位置：D・E－6グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：部分的に検出し、全体形状は不明である。また周溝先端部も不明である。SX01と同一の遺構の可能性があるが、周溝先端部の推定位置が一致しておらず、本報告では異なる遺構として報告する。長さ1.60m、上端幅0.90～0.71m、下端幅0.60～0.49m。確認面からの深さは0.45mである。断面形状は箱形である。底面は比較的平坦である。主軸方位：N－32°－W。覆土：1箇所て覆土を観察した。10層に分層し、いずれも自然堆積と考えられる。

遺物 (第14図、第5表、図版8)

出土状況：本遺構からは5点、16.4gの遺物が出土した。全て弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器で、いずれも小破片である。

時期

遺構及び出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



第15図 第5号周溝状遺構実測図 (SX05)

第5表 第5号周溝状遺構出土遺物観察表

検出番号 図版番号	出土 遺構	種類 図種	部位	計測(m) 口縁 底面 面積	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
13-1 (SX05)	SX05	土師器	口縁部	—		外土 内面		良		
8-SX05-1										

2 溝状遺構

第1号溝状遺構 SD01

遺構 (第16図 図版4-2)

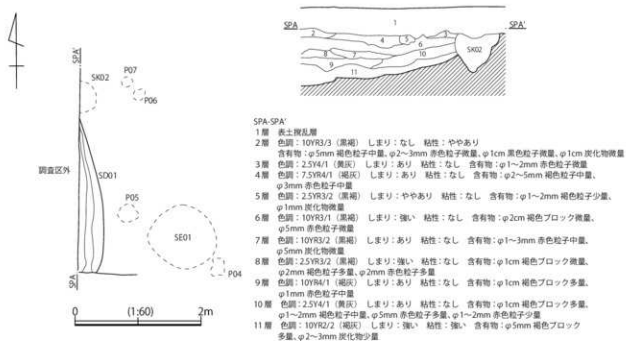
位置: A-3・4グリッド。重複関係: SK02に切られる。平面形・規模: 調査区西壁から部分的に検出した。上端が緩やかな弧状を呈するため溝状遺構も可能性があるが、全体形状が不明なため、本報告では溝状遺構として報告する。長さ2.50m、上端幅0.40～0.10m、下端幅0.18～0.09m。確認面からの深さは0.9mである。断面形状は不明である。主軸方位: N-86°-E。覆土: 1箇所で覆土を観察した。10層に分層し、いずれも自然堆積と考えられる。

遺物 (第17図 第6表 図版8)

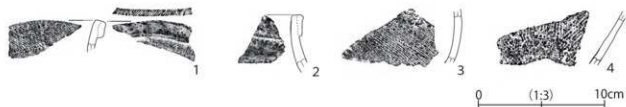
出土状況: 本遺構からは27点、239.8gの遺物が出土した。全て弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器である。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の可能性がある。



第16図 第1号溝状遺構実測図 (SD01)



第17図 第1号溝状遺構出土物実測図 (SD01)

第6表 第1号溝状遺構出土遺物観察表

探検番号 図版番号	出土 遺物	種類 器種	部位	法量(m) 口徑 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
16-1 8-5001-1	SD01	土師器 壺形	口縁部	—	15.8	外面 ナデ(縦) 口縁上部 黒線紅縄文様 内面 黒線紅縄文様	φ1~2mm褐色粒子中量 φ1mm以下白色粒子微量 φ1~2mm黒色粒子少量	良	外面 紅い(横) (7, 5197/3) 内面 紅い(横) (7, 5197/3)	複合口縁
16-2 8-5001-2	SD01	土師器 壺形	口縁部	—	17.1	外面 ヘラナデ(縦) 内面 ヘラナデ(縦)	φ1~2mm褐色粒子少量 φ3~5mm小粒少量	良	外面 赤赤黒部；紅い(横) (7, 5197/4) 内面 赤黒部；赤(1084/6)	内外面赤部 複合口縁
16-3 8-5001-3	SD01	土師器 壺形	胴部	—	22.5	外面 ハケメ(縦) 内面 ヘラナデ(縦)	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm褐色粒子少量 φ1mm赤色粒子少量	良	外面 黒褐色(5193/1) 内面 黒褐色(7, 5193/1)	
16-4 8-5001-4	SD01	土師器 壺形	胴部 底面	—	24.7	外面 ハケメ(縦) 内面 ハケメ(斜め)→ヘラナデ (縦)	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm褐色粒子微量 φ1~2mm褐色粒子微量	良	外面 赤赤黒部(7, 5195/6) 内面 灰褐色(7, 5194/2)	

第2節 その他の遺構と遺物

1 溝状遺構

第2号溝状遺構 SD02

遺構 (第18・19図 図版3-1)

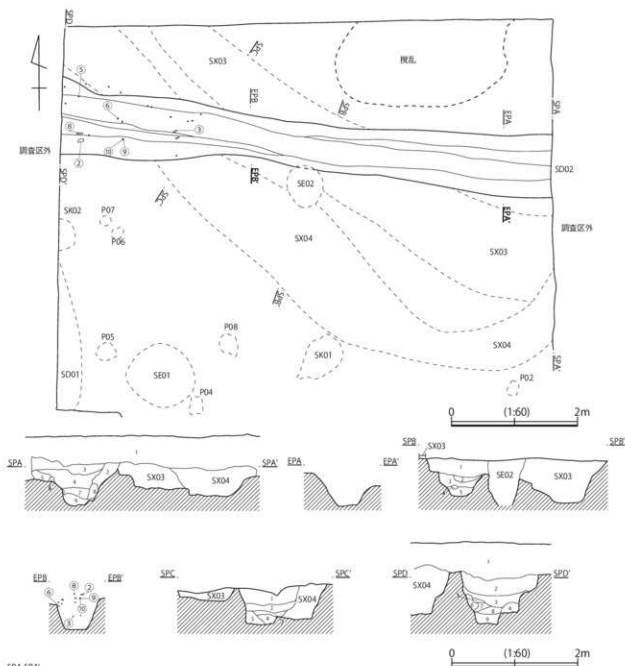
位置：A～E-2グリッド。重複関係：SX03、SX04を切り、SE02に切られる。平面形・規模：調査区東壁～西壁へほぼ一直線に検出し、調査区外へ伸びる。長さ約7.56m、上端幅1.23～0.68m、下端幅0.63～0.33m。確認面からの深さは約0.72mである。断面形状は概ね逆台形状である。調査区東壁では逆凸状を呈する。底面はほぼ平坦である。主軸方位：N-7°-E。覆土：3箇所まで覆土を観察した。最大で8層に分層し、SPA-SPA'は水平堆積ではないため、人為的な埋め戻しの可能性が少なからずある。それ以外のSPB-SPB'、SPC-SPC'、SPD-SPD'は、いずれも自然堆積と考えられる。

遺物 (第20図 第7・8表 図版8)

出土状況：本遺構からは283点、1,134.8gの遺物が出土した。弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器229点(590.4g)、平安時代相当の須恵器42点(175.4g)、中世相当の陶器6点(279.6g)、礫6点(89.4g)である。

時期

遺構の状況や出土遺物から、平安時代相当の可能性がある。出土遺物の内、土師器はSX03、SX04からの流れ込みと考えられる。



SPA-SPA'

- 1層 表土攪乱層
- 2層 色調: 10YR3/1 (黒褐) しまり: ややあり 粘性: なし 含有物: ϕ 1cm 褐色ブロック少量, ϕ 2~3mm 褐色粒子少量, ϕ 1cm 赤色ブロック微量
- 3層 色調: 2.5Y3/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし 含有物: ϕ 1~3mm 赤色粒子少量
- 4層 色調: 7.5YR3/2 (黒褐) しまり: なし 粘性: なし 含有物: ϕ 5mm 褐色粒子少量, ϕ 1mm 赤色粒子少量
- 5層 色調: 2.5Y4/1 (黒灰) しまり: なし 粘性: なし 含有物: ϕ 5mm 褐色粒子中量, ϕ 1mm 赤色粒子微量
- 6層 色調: 10YR5/6 (明黄褐) しまり: あり 粘性: あり 含有物: ϕ 1~2mm 赤色粒子中量
- 7層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: ややあり 粘性: なし 含有物: ϕ 0.5~1cm 赤色粒子少量, ϕ 1mm 灰化物微量
- 8層 色調: 5YR3/1 (黒褐) しまり: ややあり 粘性: なし 含有物: ϕ 1cm 褐色ブロック多量, ϕ 5mm 赤色粒子少量, ϕ 1mm 赤色粒子微量
- 9層 色調: 10YR4/1 (褐灰) しまり: なし 粘性: なし 含有物: ϕ 1cm 褐色ブロック少量, ϕ 1~1.5cm 赤色ブロック中量, ϕ 1cm 灰色ブロック少量, ϕ 5mm 焼土粒子微量

SPB-SPB'

- 1層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: ややあり 粘性: なし 含有物: ϕ 5mm 赤色粒子中量
- 2層 色調: 10YR4/1 (褐灰) しまり: ややあり 粘性: ややあり 含有物: ϕ 1~3mm 赤色粒子微量
- 3層 色調: 10YR4/1 (褐灰) しまり: 強い 粘性: ややあり 含有物: ϕ 2~5mm 褐色粒子微量
- 4層 色調: 10YR5/6 (明黄褐) しまり: 強い 粘性: あり 含有物: ϕ 5mm 褐色粒子中量
- 5層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: 強い 粘性: 強い 含有物: ϕ 1~2mm 褐色粒子中量, ϕ 2~5mm 赤色粒子中量

第 18 図 第 2 号溝状遺構実測図・遺物出土状況図 (SD02) (1)

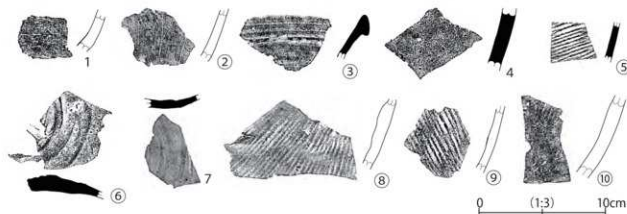
SPC-SPC'

- 1層 色調: 10YR3/1 (黒褐) しまり: 強い 粘性: なし 含有物: ϕ 5mm 赤色粒子少量
 2層 色調: 2.5Y3/2 (黒褐) しまり: あり 粘性: ややあり 含有物: ϕ 5mm 赤色粒子中量
 3層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: ややあり 粘性: ややあり 含有物: ϕ 2~3mm 褐色粒子微量, ϕ 2~3mm 赤色粒子微量
 4層 色調: 10YR4/1 (褐灰) しまり: あり 粘性: あり 含有物: ϕ 1~2mm 褐色粒子中量, ϕ 1~2mm 赤色粒子中量
 5層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: あり 粘性: あり 含有物: ϕ 0.5~1cm 赤色粒子中量, ϕ 2~3cm 灰色粘性ブロック多量

SPD-SPD'

- 1層 表土層凡層
 2層 色調: 10YR3/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし 含有物: ϕ 5mm 褐色ブロック少量, ϕ 2~3mm 赤色粒子少量
 3層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし 含有物: ϕ 1cm 褐色ブロック微量, ϕ 1~2mm 赤色粒子少量
 4層 色調: 7.5YR3/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: あり 含有物: ϕ 1~2cm 褐色ブロック少量, ϕ 5mm 褐色粒子中量, ϕ 1cm 赤色ブロック少量
 5層 色調: 10YR4/1 (褐灰) しまり: なし 粘性: なし 含有物: ϕ 3~5mm 褐色粒子少量, ϕ 1~3mm 赤色粒子少量
 6層 色調: 7.5YR4/1 (褐灰) しまり: ややあり 粘性: ややあり 含有物: ϕ 0.5~1cm 褐色ブロック多量, ϕ 1~2mm 赤色粒子中量, ϕ 1mm 炭化物微量
 7層 色調: 2.5YR3/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: あり 含有物: ϕ 1~3mm 褐色粒子中量, ϕ 1~3mm 赤色粒子中量
 8層 色調: 10YR2/2 (黒褐) しまり: あり 粘性: あり 含有物: ϕ 1cm 褐色ブロック多量, ϕ 5mm 赤色粒子中量, ϕ 1~2mm 黒色粒子微量
 9層 色調: 2.5YR3/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: ややあり 含有物: ϕ 2~3cm 褐色ブロック多量, ϕ 5mm 赤色粒子微量

第19図 第2号溝状遺構実測図・遺物出土状況図 (SD02) (2)



第20図 第2号溝状遺構出土遺物実測図 (SD02)

第7表 第2号溝状遺構出土遺物観察表 (1)

探検番号	出土遺構	種類・形状	部位	位置(北緯・東経)	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
19-1	SD02	土師器 釜形	胴部	-	20.0	外面 ヘラナデ(横)	ϕ 1~2mm 赤色粒子少量 ϕ 1mm 褐色粒子少量	良	外面 赤(10R5/6)	
8-SD02-1						内面 ヘラナデ(横)			内面 紅褐色(5YR5/3)	
19-2	SD02	土師器 釜形	胴部	-	23.5	外面 ハケメ(縦)→ヘラナデ(横)	ϕ 1mm以下金雲母片微量 ϕ 1mm 白色粒子少量 ϕ 1mm 黒色粒子極微量	良	外面 明赤褐(2.5YR5/8)	
8-SD02-2						内面 ヘラナデ(横)			内面 黒褐(5YR2/1)	
19-3	SD02	陶器 甕形	口縁部	-	30.6	口タロ成形	ϕ 1~3mm 白色粒子少量 ϕ 5mm 小砂少量	良	外面 灰(5N/7)	
8-SD02-3									内面 灰白(5N/7)	
19-4	SD02	灰土器 甕形	胴部	-	45.1	口タロ成形	ϕ 1mm 白色粒子少量 ϕ 1mm 黒色粒子微量	良	外面 黒(5N/8)	
8-SD02-4									内面 灰(7.5Y5/1)	
19-5	SD02	灰土器 甕形	胴部	-	8.8	外面 平行タタキ	ϕ 1~2mm 白色粒子中量 ϕ 1~2mm 黒色粒子微量	良	外面 灰白(5N/7)	
8-SD02-5									内面 灰(5N/1)	
19-6	SD02	灰土器 甕形	蓋部	-	64.4	口タロ成形	ϕ 1~2mm 黒色粒子少量 ϕ 1~2mm 白色粒子微量	良	外面 黄灰(2.5Y6/1)	
8-SD02-6									内面 灰(5N/1)	
19-7	SD02	灰土器 片断	底部	-	20.6	底部刮削痕あり	ϕ 1~3mm 白色粒子少量 ϕ 1mm 白色粒子少量	良	外面 灰(5N/7)	東金子カ
8-SD02-7									内面 灰(5N/1)	

第8表 第2号溝状遺構出土遺物観察表(2)

8-S202-7	位置	形状	断面	寸法	出土位置・状況	出土品	年代	内面	底面
19-④	SD02	陶器 壺形	胴部	—	68.1	外面 タタキ	良	内面 灰白(7.137/1)	底面 灰白(7.137/1)
8-S202-④								内面 灰白(2.137/1)	
19-⑤	SD02	陶器 壺形	胴部	—	25.9	外面 平行タタキ	良	内面 灰(84/7)	底面 灰(96/1)
8-S202-⑤								内面 灰(96/1)	
19-⑥	SD02	陶器 壺形	胴部	—	44.5	口クロ成形 外面自然釉	良	内面 オリーブ灰(1016/2)	底面 灰黄(2.136/2)
8-S202-⑥								内面 灰黄(2.136/2)	

2 土坑

第1号土坑—SK01

遺構(第21図 図版5-1・2)

位置:C-4グリッド。重複関係:なし。平面形・規模:やや不整形な楕円形を呈する。焼土が確認でき、ファイヤーピットとして機能していたと考えられる。長軸0.89m、短軸0.55m、確認面からの深さは0.16mである。断面形状は概ね皿形状である。主軸方位:N-44°-E。覆土:1箇所で覆土を観察した。2層に分層し、自然堆積か人為的な埋め戻しかは不明である。

遺物(第22図 第9表 図版9)

出土状況:本遺構からは14点、104.4gの遺物が出土した。弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器10点(93.3g)、平安時代相当の須恵器3点(5.9g)、ロクロ土師器1点(5.2g)である。

時期
出土遺物から中世相当の可能性がある。

第2号土坑—SK02

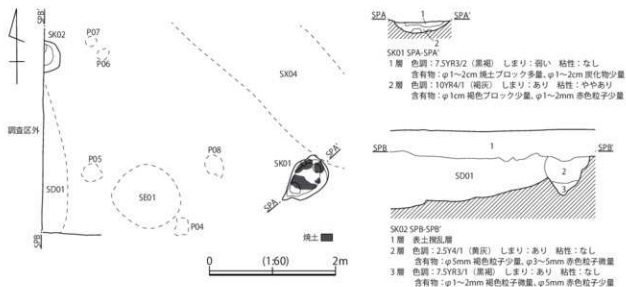
遺構(第21図)

位置:A-3グリッド。重複関係:SD01を切る。平面形・規模:調査区西壁で検出し、円形を呈する。長軸0.52m、短軸0.25m、確認面からの深さは約0.54mである。断面形状は不整形な逆三角形である。覆土:1箇所で覆土を観察した。2層に分層し、自然堆積の可能性はある。

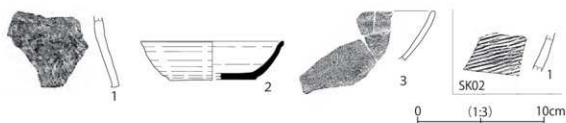
遺物(第22図 第10表 図版9)

出土状況:本遺構からは陶器17点、46.7gの遺物が出土した。弥生時代後半から古墳時代前期初頭の土師器15点(28.8g)、平安時代相当の須恵器1点(2.8g)、陶器1点(15.1g)である。

時期
遺構の状況や出土遺物から中世相当の可能性がある。



第 21 図 第 1 号・第 2 号土坑実測図 (SK01・02)



第 22 図 第 1 号・2 号土坑出土遺物実測図 (SK02)

第 9 表 第 1 号土坑出土遺物観察表

探出番号 図版番号	出土 遺物	観測 部位	位置	法量(m) 口径 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
21-1 9-SK01-1	土師器 台付甕	胴部	-	-	29.6	外面 ヘラナデ(横) 内面 ヘラナデ(横)	φ1mm褐色粒子中量 φ1mm白色粒子微量 φ1mm以下金雲母片微量	良 内面	橙 (5YR6/6) にぶい橙 (5YR6/4)	
21-2 9-SK01-2	須恵器 片	底部	[11.4] [3.0] [6.7]	-	35.1	口クロ成形 底部回転糸切痕	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm褐色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	良 内面	灰白 (2.5Y7/1) 灰白 (2.5Y7/1)	黄金子か
21-3 9-SK01-3	口クロ 土師器 片	口縁部	-	-	15.6	口クロ成形	φ1~2mm褐色粒子少量 φ1mm以下赤色粒子微量 φ1mm以下金雲母片微量	やや良 内面	浅黄橙 (10YR8/3) にぶい黄橙 (10YR7/3)	

第 10 表 第 2 号土坑出土遺物観察表

探出番号 図版番号	出土 遺物	観測 部位	位置	法量(m) 口徑 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
21-1 9-SK02-1	陶器 甕	胴部	-	-	15.1	外面 タタキ 内面 ナデ	φ 1mm 以下白粒少量	良 内面	灰白 (5Y7/7) 灰白 (5Y7/7)	

3 井戸跡

第1号井戸跡—SE01

遺構（第23図 図版6-1）

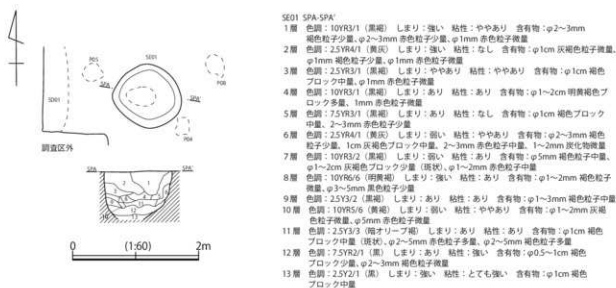
位置：B-4 グリッド。重複関係：なし。平面形・規模：不整形な円形である。長軸 1.10m 前後、短軸 1.0m 前後、中端 0.85m 前後である。遺構確認面から 0.75m まで調査を行った。断面形状は幅広の円柱状を呈する。主軸方位：円形のため不明。覆土：1 箇所で覆土を観察した。13 層に分層した。12・13 層は自然堆積の可能性がある、12 層よりも上層は人為的な埋め戻しの可能性がある。

遺物（第23図 第11表 図版9）

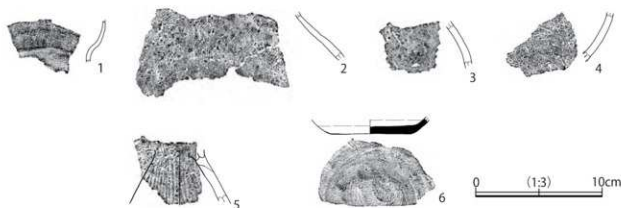
出土状況：本遺構からは 22 点、222.3g の遺物が出土した。弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の土師器 21 点（189.4g）、平安時代相当の須恵器 1 点（32.9g）である。

時期

遺構形状及び出土遺物から平安時代の可能性がある。



第23図 第1号井戸跡実測図 (SE01)



第24図 第1号井戸跡出土遺物実測図 (SE01)

第 11 表 第 1 号井戸跡出土遺物観察表

探検番号	出土 遺物	種類 部類	部位	辺長(mm) 口徑 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
23-1	9-SE01-1	土師器 壺	口縁部	—	8.6	外面 ヘラナデ(刷)	外面 以下白色粒子少量 以下金雲母片微量	良	外面 明赤褐色(SYK5/6)	
						内面 ナデ		内面	明赤褐色(SYK5/6)	
23-2	9-SE01-2	土師器 壺	胴部	—	55.0	外面 ハケメ(刷・斜め)	1~2mm赤色粒子少量 1~2mm白色粒子少量 3~5mm塵少量	やや良	外面 灰白(10YR8/2)	
						内面 ナデ		内面	褐色(SYK6/6)	
23-3	9-SE01-3	土師器 壺	胴部	—	14.3	外面 ハケメ(斜め)	1~3mm赤色粒子少量 1mm以下白色粒子少量 1mm以下金雲母片微量	やや良	外面 明赤褐色(SYK5/6)	
						内面 ヘラナデ(刷)		内面	明赤褐色(SYK5/6)	
23-4	9-SE01-4	土師器 壺	胴部	—	16.3	外面 ハケメ(横一刷)	2mm褐色粒子少量 1mm以下白色粒子少量 1mm以下金雲母片微量	良	外面 近い褐色(7.5YR7/4)	
						内面 ヘラナデ(刷)		内面	近い褐色(5YR7/4)	
23-5	9-SE01-5	土師器 台付甕	胴部	[4.4]	26.7	外面 ハケメ(刷)	1mm以下白粒中量 1~2mm赤色粒子微量 1~2mm褐色粒子微量 1mm以下金雲母片微量	良	外面 明赤褐色(SYK5/6)	
						内面 ナデ		内面	褐色(SYK6/6)	
23-6	9-SE01-6	土師器 埴	底面	[1.1] [6.5]	32.9	口縁部 底部回転糸切痕 タズリあり	白色斜紋物質少量 1mm以下白色粒子少量 1~2mm褐色粒子少量	良	外面 黄灰(2.5YR/1)	南比金
								内面	灰(SY5/1)	

第 2 号井戸跡— SE02

遺構 (第 25 図 図版 6-2)

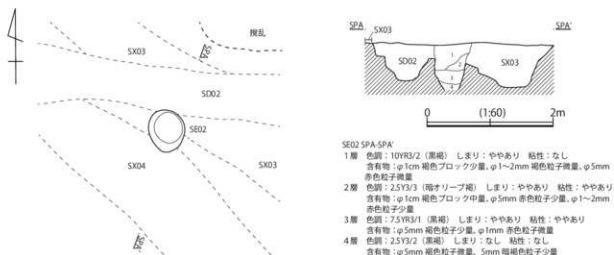
位置: C-2・3 グリッド。重複関係: SX03、SX04、SD02 を切る。平面形・規模: 円形であり、長軸 0.75m 前後、短軸 0.58m 前後、中端 0.43m 前後である。断面形状は幅狭の円柱状である。主軸方位: 円形のため不明。覆土: 1 箇所覆土を観察した。4 層に分層し、自然堆積の可能性はある。

遺物

出土状況: 本遺構からは 8 点、19.9g の遺物が出土した。弥生時代後期後半〜古墳時代前期初頭の土師器 6 点 (16.4g)、須恵器 2 点 (3.5g) である。いずれも細片であり図化できなかった。

時期

遺構の状況や出土遺物から中世相当の可能性はある。



第25図 第2号井戸跡実測図 (SE02)

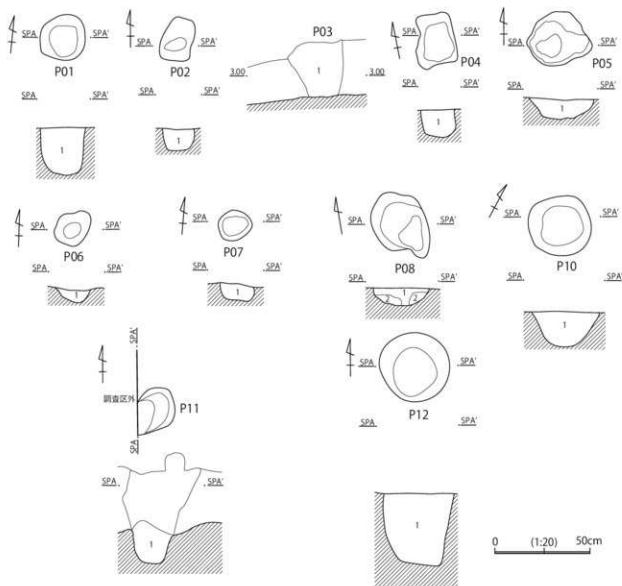
4 ビット

遺構（第5、26図 第12表）

本調査区からは、全部で11基のビットを検出した。遺構と重複するものは、P11のみであり、SX01の内部に位置し、SX01の埋没後、掘削されたものと考えられる。また、SX01の東側で検出されたP01、P10は周溝状遺構内部に位置する可能性があることを付記しておく。法量等は第12表に示した。

遺物

出土状況：ビットから5点、17.6gの遺物が出土した。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器5点（17.6g）である。いずれも少破片である。



P01
1層 色調: 2.5YR3/1 (黒褐) しまり: ややあり 粘性: ややあり
含有物: φ2~3mm 褐色粒子微量, φ1cm 赤色粒子少量, φ1~2mm 赤色粒子微量

P02
1層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし
含有物: φ2~5mm 褐色粒子少量, φ2~5mm 赤色粒子少量, φ1~3mm 炭化物少量

P03
1層 色調: 10YR3/2 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし
含有物: φ1cm 褐色ブロック中量, φ1mm 褐色粒子少量

P04
1層 色調: 7.5YR3/1 (黒褐) しまり: ややあり 粘性: なし
含有物: φ1cm 褐色ブロック中量

P05
1層 色調: 7.5YR3/1 (黒褐) しまり: ややあり 粘性: あり
含有物: φ2~5mm 褐色粒子中量, φ1~2mm 赤色粒子少量

P06
1層 色調: 2.5Y3/3 (暗オリーブ褐) しまり: あり 粘性: ややあり
含有物: φ1cm 褐色ブロック多量, φ2mm 赤色粒子中量

P07
1層 色調: 10YR3/1 (黒褐) しまり: ややあり 粘性: なし
含有物: φ1cm 褐色ブロック中量, φ赤色粒子微量, φ2mm 炭化物微量

P08
1層 色調: 10YR4/1 (褐底) しまり: 強い 粘性: なし
含有物: φ1cm 褐色ブロック多量
2層 色調: 10YR6/6 (明黄褐) しまり: あり 粘性: あり
含有物: φ1~2mm 赤色粒子中量

P10
1層 色調: 2.5Y3/1 (黒褐) しまり: あり 粘性: なし
含有物: φ5mm 褐色粒子少量, φ2mm 炭化物少量

P11
1層 色調: 10YR3/3 (暗褐) しまり: あり 粘性: ややあり
含有物: φ2mm 赤色粒子微量

P12
1層 色調: 2.5Y2/1 (黒) しまり: 強い 粘性: 強い
含有物: φ1cm 褐色ブロック中量, φ5mm 赤色粒子中量

第 26 図 ビット実測図 (P01 ~ 08・10 ~ 12)

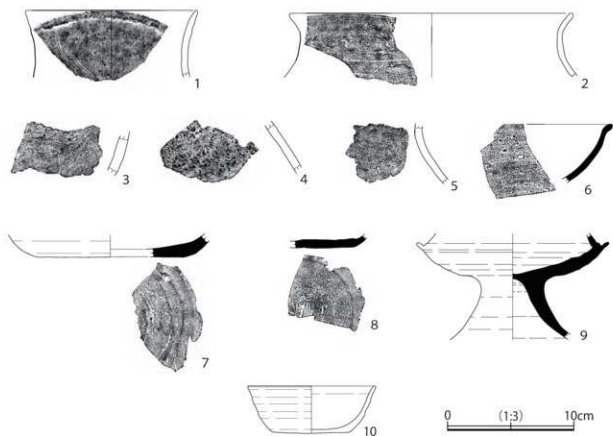
第 12 表 ビット計測表

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	出土遺物
P01	C-6	円形	0.25	0.24	0.25	なし
P02	E-4	楕円形	0.22	0.18	0.15	土師器1点 11.1g
P03	C-1(北壁)	円柱形				なし
P04	B-4	不整形	0.28	0.22	0.23	土師器2点 12.3g
P05	A-4	不整円形	0.35	0.28	0.14	なし
P06	A-3	不整円形	0.18	0.18	0.15	なし
P07	A-3	円形	0.18	0.16	0.16	なし
P08	B-4	不整形	0.36	0.31	0.15	土師器1点 2.6g
P09	なし					
P10	C-5	円形	0.36	0.34	0.18	土師器1点 1.6g
P11	B-5	不整円形	0.22	0.19	0.1	なし
P12	D-5	円形	0.40	0.36	0.37	なし

5 遺構外出土遺物

遺物（第 27 図 第 13 表 図版 9）

本調査では、試掘調査時に出土したものを含め遺構外から、89 点、892.9g の遺物が出土した。弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の土師器が 70 点（445.8g）、平安時代相当の須恵器 14 点（377.6g）、中世相当のロクロ土師器 5 点（69.5g）である。第 14 表に、遺構出土遺物及び遺構外出土遺物の点数、重量を示した。



第 27 図 遺構外出土遺物実測図

第 13 表 遺構外出土遺物観察表

探検番号 図版番号	出土 遺構	種類 器種	部位	法量(cm) 口徑 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	敷土	構成	色調	備考
27-1	遺構外-1	土師器 甕	口縁部	[13.5] [5.4] —	42.5	外面 ヘラナデ (横) →ミガキ (横)	φ1mm金雲母片少量 φ1~2mm赤色粒子少量 φ1mm赤色粒子中量	貝	外面 赤錆部: 赤(108/6) 浅黄緑(7.5Y8/3)	内外赤錆
9-遺構外-1						内面 ミガキ (横)			内面 赤錆部: 赤(108/6) にぶい曜(7.5Y7/3)	
27-2	遺構外-2	土師器 甕	口縁部	[22.5] [5.2] —	27.9	外面 ヘラナデ (横)	φ1~2mm白色粒子少量 φ1~2mm赤色粒子微量 φ1~3mm金雲母片少量	貝	外面 曜(2.5Y8/6)	
9-遺構外-2						内面 ヘラナデ (横)			内面 曜(2.5Y8/6)	
27-3	遺構外-3	土師器 甕	胴部	—	30.6	外面 ミガキ (横、斜め)	φ1~2mm褐色粒子中量 φ1~3mm白色粒子少量 φ1mm金雲母片少量	貝	外面 赤(108/6)	外面赤錆
9-遺構外-3						内面 ナデ (横)			内面 明赤曜(2.5Y8/6)	
27-4	遺構外-4	土師器 甕	胴部	—	28.8	外面 単筋LE縄文 (横) S字状結節文 口縁より下に赤錆	φ2~3mm赤色粒子少量 φ1mm以下金雲母片少量 φ1mm褐色粒子微量	貝	外面 赤錆部: 赤(108/6) にぶい曜(7.5Y7/3)	
9-遺構外-4						内面 ナデ			内面 にぶい曜(7.5Y8/4)	
27-5	遺構外-5	土師器 台付甕	脚部	—	21.8	外面 ヘラナデ (横)	φ1mm以下白色粒子少量 φ1~2mm白色小礫少量 φ1mm以下金雲母片微量	やや貝	外面 曜(5Y8/6)	
9-遺構外-5						内面 ヘラナデ (横)			内面 赤(108/6)	
27-6	遺構外-6	須恵器 所	口縁部	—	17.1	ロクロ成形	φ1mm白色針状物質中量 φ1~2mm白色粒子少量	貝	外面 灰(86/1)	南比企産
9-遺構外-6									内面 黄灰(2.5Y5/1)	
27-7	遺構外-7	須恵器 甕	底部	[1.7] [11.3]	49.8	ロクロ成形 底部回転未切痕 底部へラ削り	φ1~3mm白色粒子少量 φ2~5mm白色小礫少量 φ1mm白色粒子微量	貝	外面 灰(86/1)	
9-遺構外-7									内面 灰(86/1)	
27-8	遺構外-8	須恵器 坪	底部	—	24.6	ロクロ成形 底部回転未切痕	φ1mm白色針状物質中量 φ1~2mm白色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	貝	外面 黄灰(2.5Y6/1)	南比企産
9-遺構外-8									内面 黄灰(2.5Y5/1)	
27-9	遺構外-9	須恵器 器台	口縁~ 脚部	[12.4] [8.6] —	241.5	ロクロ成形	φ2~5mm褐色粒子中量 φ1mm褐色粒子中量 φ1~3mm小礫少量	貝	外面 灰(5Y5/1)	
9-遺構外-9									内面 灰(5Y6/1)	
27-10	遺構外-10	ロクロ 土師器 高杯	口縁~ 胴部	[10.1] [3.8] [6.0]	62.0	ロクロ成形 底部へラ削り	φ1mm赤色粒子少量 φ1mm褐色粒子少量	貝	外面 曜(7.5Y7/6)	やや摩滅
9-遺構外-10									内面 浅黄曜(7.5Y8/4)	

第 14 表 遺物出土点数・重量一覧

	土師器		須恵器		陶器		ロクロ土師器		その他		合計	
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	種別	重量(g)	重量(g)
SX01	95	1,748.3	1	18.4							96	1,766.7
SX03	193	609.0	30	147.7			2	6.3	2	曜	7.6	227 770.6
SX04	66	1,481.0	3	51.1					1	曜	4.2	70 1,536.3
SX05	5	16.4									5	16.4
SD01	27	239.8									27	239.8
SD02	229	590.4	42	175.4	6	279.6			6	曜	89.4	283 1,134.8
SK01	10	93.3	3	5.9			1	5.2			14	104.4
SK02	15	28.8	1	2.8	1	15.1					17	46.7
Pit	5	17.6									5	17.6
SE01	21	189.4	1	32.9							22	222.3
SE02	6	16.4	2	3.5							8	19.9
遺構外	55	381.0	11	358.1			5	69.5			71	808.6
試掘	15	64.8	3	19.5							18	84.3
合計	742	5,476.2	97	815.3	7	294.7	8	81.0	9	曜	101.2	863 6,768.4

第4章 まとめ

今回の前谷遺跡第5次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構4基、溝状遺構1条、平安時代相当の溝状遺構1条、土坑2基、井戸跡2基、ビット11基を検出した。以下に各時代の様相について述べる。

1 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭

(1) 周溝状遺構

本調査区からは、4基の周溝状遺構を検出した。いずれも調査区内での部分的な検出であり、完全な形で検出したものはない。SX01は周溝の西側の約4分の1を検出し、遺構の事実記載でも触れたが、SX05と同一の周溝状遺構である可能性が少なからずある。本遺構は緩やかに南側へ湾曲しており先端部は検出できなかった。開口部は北東側に位置するものと考えられる。またP01、10が周溝内部に位置していることから、周溝状遺構に付随するものである可能性も考えられる。SX03、04は周溝状遺構の西側がおおむね検出され、SX03を構築した後に、SX04が掘削されたことが東側壁面で明らかである。周溝の掘り直しについて、既存のものを利用せずに南に位置を違えて構築していることは注目すべきである。またSX04は明瞭な角をもっており、角付近において特徴的な遺物（完形土器等）は出土しなかった。SX05は先端部付近のみの検出であり、先端部が検出できなかったものの、開口部が北西にあることが想定できる。

今回の調査で検出した4基の周溝状遺構を含めると、前谷遺跡において検出された周溝状遺構は15基を数える（第1次調査：2基、第2次調査：2基、第3次調査：6基、第4次調査：1基）。本調査区の周溝状遺構について、SX01は開口部が北東方向と想定でき、SX03、SX04の開口部を指摘することは難しいが、上端の状況から南東か北西が考えられる。SX05は先端部が検出されていないが、概ね北西方向に開口部がある可能性がある。岩井聖吾氏による戸田市の周溝状遺構の集成によると（岩井・坂上・山崎 2013）、市内の周溝状遺構の開口部は、南西（39%）、南東（31%）が多い傾向にあり、この2方向で全体の約7割を占める。この点から、SX01、SX05は市内の傾向とは異なることが指摘できる。

今回の調査区は、第4次調査区と数メートルの至近距離であり、第4次調査で検出されたSX01と、今回のSX01が同一のものの可能性があることを付記しておく。なお、本調査区において堅穴住居跡は検出されず、これは過去の調査区と同様の傾向である。

(2) 溝状遺構

本調査区から、溝状遺構が1条検出されている。調査区西壁からの断片的なもので、出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭のものと同断した。溝の西側上端が検出されておらず、全体形状が不明である。

2 平安時代から中世

(1) 溝状遺構

本調査区からは、溝状遺構が1条検出された。東西方向のもので調査区を横断している。出土遺物が238点であり、その内容は土師器が多いが(第14表)、これはSX03、SX04を掘削し、本遺構が構築されているおり、流れ込みと考えられる。須恵器が42点出土しており、平安時代相当の帰属時期と考えられる。前谷遺跡において東西方向の溝状遺構は少なく、第4次調査において2条検出されている。

(2) 土坑

本調査区からは2基の土坑を検出した。SK01は覆土から焼土がまともって検出され、土坑内において火を焚いたことが理解できる。また土坑の底面に被熱痕跡は確認されていないことから継続的な利用は伺えない。前谷遺跡では焼土を伴う土坑は今まで検出されておらず、市内では南原遺跡第12次調査において暫定的に平安時代相当とされた火葬墓が検出されている。SK02は調査区西壁から部分的に検出されたもので、円形を呈しており、陶器片が出土したことから中世相当と判断した。

(3) 井戸跡

本調査区からは2基の井戸が検出された。いずれも井戸枠がなく、素堀りのもので、SE01は直径1.1mを測る。前谷遺跡では第2次調査で中世相当の井戸跡が2基、第3次調査で古墳～中・近世に相当する井戸跡が6基検出されており、井戸を構築するような定点的な生活拠点が複数あったことが窺える。

3 結語

以上のように、前谷遺跡第5次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構がまともって4基検出されたことは大きな成果である。前谷遺跡における当該機的生活状況を復元するためには、竪穴住居跡が検出されていないことから、周溝状遺構の機能について調査・研究を深めることが重要である。

今後は発掘調査による類例の増加や周辺遺跡との検討を通じて、前谷遺跡での人々の生活について徐々にではあるが明らかにしていきたい。

引用・参考文献

赤熊 浩一

- 2012 『前谷遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第394集 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

伊藤 和彦

- 1978 『前谷遺跡発掘調査概要報告』 戸田市文化財調査報告XⅢ 戸田市教育委員会

岩井聖吾・坂上直嗣・山崎裕子

- 2013 『南原遺跡Ⅺ』 戸田市文化財調査報告XⅤⅢ 戸田市教育委員会

岩井聖吾

- 2014 『前谷遺跡Ⅱ』 戸田市文化財調査報告XⅨ 戸田市教育委員会

- 2015 『前谷遺跡Ⅳ』 戸田市文化財調査報告XX 戸田市教育委員会

酒井清治

- 2001 「生産地の様相と編年 多摩・比企」『土師器と須恵器』普及版 季刊考古学 雄山閣

古代の入間を考える会

- 2012 『古代入間の土器と遺跡（Ⅰ）一須恵器環の編年と遺跡動態を考える一』

- 2013 『古代入間の土器と遺跡（Ⅱ）一須恵器環の編年（9・10世紀）』

- 2014 『南比企窯と東金子窯1 8世紀の東金子窯の編年と土器の分布』

- 2015 『南比企窯と東金子窯2 東金子窯の開窯と9世紀の編年』

塩野 博

- 1981 「第3節 前谷遺跡」『戸田市史 資料編1 原始・古代・中世』 戸田市

写 真 图 版



1 調査区完掘状況（北西から）



2 遺構検出状況（南東から）



1 第1号周溝状遺構遺物出土状況（南から）



2 第1号周溝状遺構完掘削状況（南東から）



1 第3、4号周溝状遺構、第2号溝状遺構完掘状況（西から）



2 第4号周溝状遺構遺物出土状況（南から）



1 第5号周溝状遺構完掘状況（南東から）



2 第1号溝状遺構、第2号土坑完掘状況（東から）



1 第1号土坑検出状況（南東から）



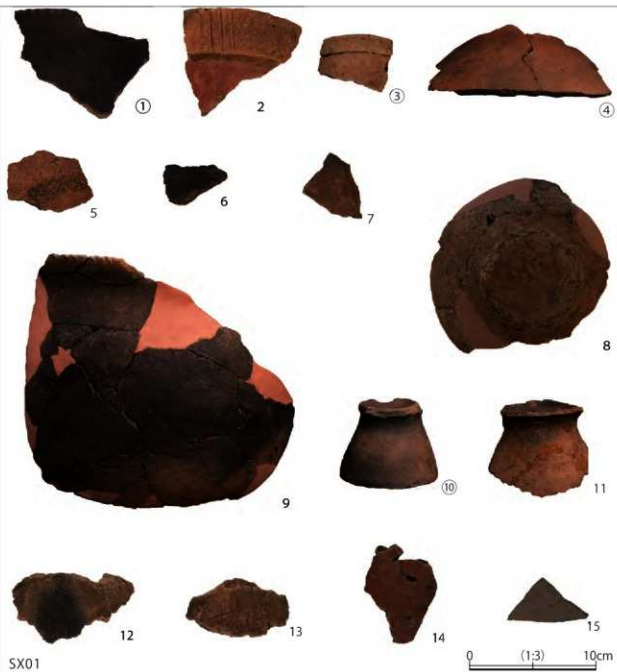
2 第1号土坑完掘状況（南東から）



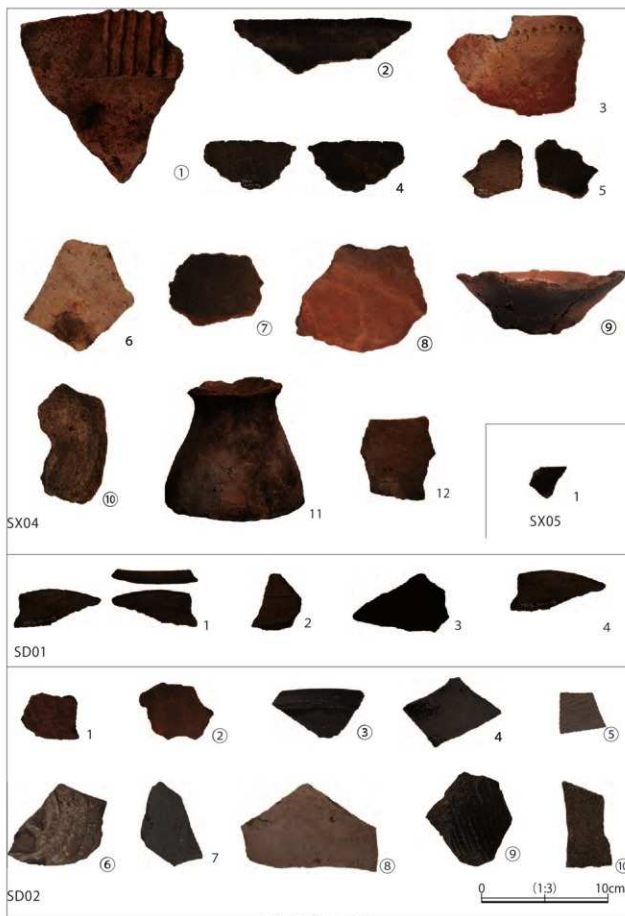
1 第1号井戸跡調査状況（南から）



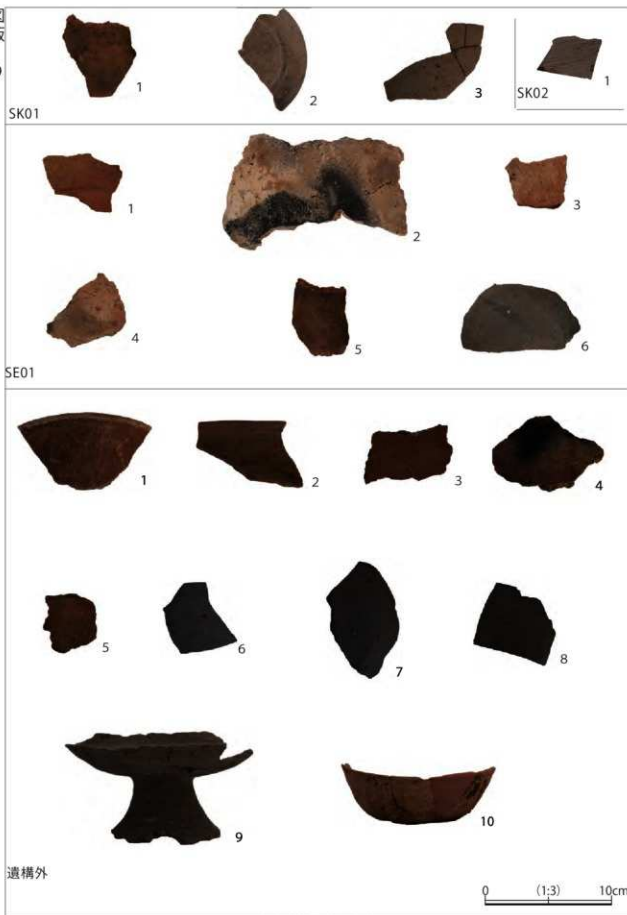
2 第2号井戸跡調査状況（北から）



出土遺物写真(1)



出土遺物写真(2)



出土遺物写真 (3)

報告書抄録

ふりがな	まえやいせきご まいぞうぶんかいはいくつちようさほうこくしよ								
書名	前谷遺跡Ⅴ 埋蔵文化財発掘調査報告書								
副書名									
巻次									
シリーズ名	戸田市文化財調査報告								
シリーズ番号	27								
編著者名	長澤 有史								
編集機関	戸田市教育委員会								
所在地	〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1 Tel.048(441)1800								
発行年月日	2018(平成30)年3月9日								
ふりがな	ふりがな	コ	ー	ド	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号		° ' "	° ' "		(㎡)	原因
まえやいせき 前谷遺跡	戸田市上戸田2丁目 20番5	11224	06-003 004 005		35° 80' 55"	139° 67' 40"	2016.6.1 ～ 2016.6.30	78.74	個人 住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
前谷遺跡	集落跡	弥生時代後期後半～ 古墳時代前期初頭	周溝状遺構 4基 溝跡 1条	土師器	・荒川流域の微高地でよく検出される周溝状遺構が4基検出され、そのうち2基が重複する。				
		城館跡	平安～ 中世	溝跡 1条 土坑 2基 井戸跡 2基	須恵器 陶器 ロクロ土師器	・調査区を東西に横断する溝状遺構が1条検出された。またファイヤーピットと考えられる土坑を1基検出した。			
	その他		ピット 11基	土師器 須恵器					
要約	本調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である前や遺跡の範囲に属し、JR埼京線戸田公園駅から北東に約600mの戸田市上戸田2丁目20番5に所在する。								
	前谷遺跡は、荒川によって形成された平坦な沖積地（荒川低地）に氾濫や流路変更によって左岸に発達した自然堤防上に立地している。								
要約	調査の結果、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭では周溝状遺構4基、溝状遺構1条を検出した。平安～中世では溝状遺構1条、土坑2基、井戸跡2基を検出した。その他時期不明のピットを11基検出した。出土遺物は弥生時代～古墳時代前期初頭の土器、平安時代の須恵器、中世相当の陶器、ロクロ土師器を検出した。								
	今回の調査により、調査区周辺は弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭では周溝状遺構群が形成されており、平安～中世にかけては溝状遺構や土坑、井戸跡が構築されていたことが判明した。								

前 谷 遺 跡 V

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行・編集 埼玉県戸田市教育委員会

〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田 1-18-1

TEL 048(441)1800

印刷 関東図書株式会社

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所 3-1-10

発行日 平成30年3月9日